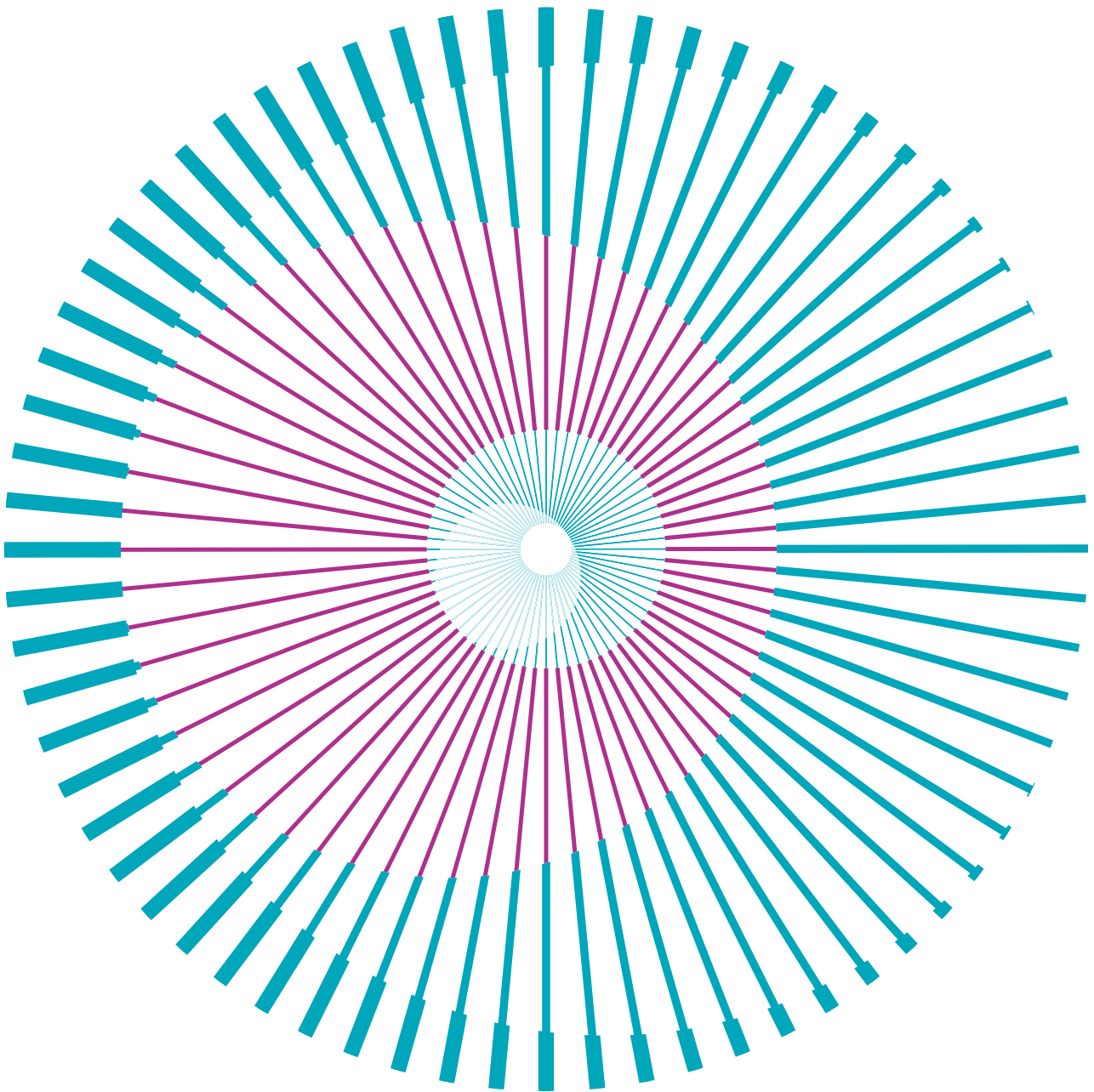


MITA

International School of Science

三田国際科学学園 2027



INTERNATIONAL × SCIENCE

124年前から今に続く 時代を切り拓く教育

世界や日本が大きな変革期を迎えていた124年前、
本校の前身となる学校が誕生しました。

孔子の教えに由来する「知好楽」を教育理念として、
時代に先駆けた教育に取り組んできました。

そして、激動の時代の中で世界を舞台に活躍できる
「発想の自由人」を育てたいという思いから、
11年前に『三田国際学園』として生まれ変わりました。

変革後、自ら考え行動できる人材を育てていくために、
本校が国際教育とともに大切にしてきたものがあります。
それが、物事を論理的に考えて伝える技法「サイエンス」です。

「サイエンス」は文系・理系や国境の壁も

軽々と越えていく力があります。

誰もがこの技法を身につけ、

世界を捉え直していく力を育てることが、

人々がより深く世界を理解する助けとなります。

2025年、本校は『三田国際科学学園』として

新たな一歩を踏み出しました。

そこには、新しい自分を発見できる数々の挑戦や、

ともに楽しみながら励む多くの仲間たちがいます。

進化の歩みを止めることのない『三田国際科学学園』で

ともに未来を切り拓いていきましょう。



三田国際科学学園で学ぶ君たちへ

いつも心に留めてほしい大切なこと

それは“貢献すること”

Contribution〈貢献〉とは、三田国際科学学園の学びの姿勢です。
授業を聞き、ノートに書き写して覚え、
先生が求めているであろう予定調和的な答えにたどり着くこと
だけでは〈貢献〉ではありません。
自分自身で考え、自分の意見を表明することこそ、
クラス全体の学びに貢献できるという考え方です。

誰かの頭の中にアイデアがひらめくと、誰かが声を発すると、
その場所が鮮やかに色づき、息吹が生まれます。

自分を取り巻く世界がきらきらと輝きを増していくような
この体験によって、生徒は、与えられるばかりではなく、
誰かを喜ばせることができる、誰かの思いを受け取ることが
できる、これまで知らなかった自分自身と出会うのです。

〈貢献〉によって醸成される学園の文化は、豊かな水をたたえる
大地のように、生徒のあふれるエネルギーを受け止め、
世界へと羽ばたいていくための力をぐんぐん伸ばしていきます。



Welcome to MITA

International School of Science

INDEX

- 05 教育理念
- 07 サイエンス教育
- 15 国際教育
- 21 6年間のロードマップ
- 22 インターナショナルサイエンスクラス(中学)・コース(高校)
- 26 メディカルサイエンステクノロジークラス(中学)・コース(高校)
- 30 インターナショナルクラス(中学)・コース(高校)
- 37 学習サポート
- 39 キャリア教育
- 41 進路実績
- 43 課外活動
- 45 年間行事
- 47 施設・環境
- 49 学園長からのメッセージ
- 50 沿革

これからの時代を生きる 生徒たちのためにできること

時代が大きく変わっても、いっどこにいても活躍できる人って、どんな人だろう。

本校では活躍できる人物に共通する資質を追究し、自分の可能性を広げられるよう、「世界標準の教育」を実践しています。

学園で過ごす日々は、発見と驚きの連続。きっと、新たな世界に目を開かれる瞬間に出会えます。

既存概念にとらわれず、考え、行動する「発想の自由人」として、世界に大きく羽ばたくことを願っています。

6年間で培われる 12のコンピテンシー

三田国際科学学園では、変化し続ける世界で求められる「12のコンピテンシー（能力・行動特性）」の育成を教育目標に掲げています。授業では、コンピテンシーを各単元の到達目標や評価基準に反映させ、学校行事や部活動においても、目標達成に必要な要素として位置づけています。それぞれの活動において必要なコンピテンシーを明示することで、生徒自身が意識を持って取り組めるよう工夫されています。こうした学びを通じて、生徒たちは着実にコンピテンシーを身につけていきます。

創造性
Creativity

責任感
Responsibility

社会参画
Public Participation

リーダーシップ
Leadership

率先
Initiative

探究心
Investigation

共創
Co-Creation

生産性
Productivity

コミュニケーション
Communication

問題解決能力
Solving Ability

革新性
Innovativeness

異文化理解
Intercultural Understanding

「MITAの学び」と切り離せない 3つのキーワード

THINK & ACT

考え行動することを繰り返し
より良い世界へ少しずつ前進する

本校のすべての学びと活動の中心にあるのが“THINK & ACT”です。“THINK”は習得した知識をもとに考える力。自分を取り巻く「なぜ？」に、根拠をもって答えるための深い思考力を重視しています。そして、考えたことを行動に移す“ACT”によって、初めて解決のための実践とさらなる課題の発見へとつながっていきます。“THINK & ACT”の繰り返し成り長や豊かな人生を創造すると考えています。

INTERNATIONAL

多様性に満ちた環境で育む
豊かな国際感覚

グローバル化や多様化が進む現代では、開かれた価値観を持ち、違いを認め合うことが、何よりも大切です。異なるバックグラウンドを持つ生徒や教員がいる環境の中で、自分とは違う考え方をする人々と接し、ともに一つのを創り上げるなかで、豊かな国際感覚を育みます。高校卒業後の選択肢として、誰もが海外大学を身近に考えられるよう、教育活動を展開しています。

SCIENCE

世界を知る喜びがある
視る眼を養い深く思考する

自分自身を取り巻く不思議に気づき、言語化し問いを立てたとき、世界はより豊かなものであることを知ります。私たちは、その問いから仮説を立て思考することで「科学的に考えること」の入り口に立つのです。サイエンスという方法論を身につけることで「当たり前」ととらわれない自由な発想と深い思考を可能にします。楽しみながら好奇心を刺激する学びが、今後の変化する世界でより良く生きていく力を育みます。

Special Interview 1

MITA × SCIENCE



サイエンス教頭

辻 敏之

博士（工学）取得後、名古屋大学・東京大学などで研究に従事。専門は生物物理学・バイオインフォマティクス。2016年4月より三田国際学園中学校・高等学校（現 三田国際科学学園中学校・高等学校）に勤務。メディカルサイエンステクノロジーコースの立ち上げと運営をはじめ、サイエンス教育を推進。2022年度より教頭を務める。



中学1期生（2015年入学）

塩谷 明日香

三田国際学園中学校1期生。インターナショナルクラス入学後、高校はメディカルサイエンステクノロジーコースに進学。在学時に風力発電の垂直軸型風車の挙動を研究し、「Global Link Singapore 2019」にて「Futuristic Award」を受賞。慶應義塾大学環境情報学部卒業後、現在は東京大学大学院学際情報学府先端表現情報学コースに在籍。

ものづくりを通じて問いを明らかにする

中学1期生へのインタビューを通して、三田国際の10年の歩みを振り返る対談企画です。
Science編では、在学時に研究に目覚め、今も先端分野で研究を続ける塩谷明日香さんへのインタビューをお届けします。

ものづくりの探究が未来につながる

辻 振り返ってみて、メディカルサイエンステクノロジーコース（以下MST）はどうだった？高校のときに経験しておいて良かったことはある？

塩谷 当時は意識していませんでしたが、今思えば、テーマを考えて仮説を立て、実験してデータをまとめ、発表するという一連の流れは、大学の研究そのものでした。毎週行う検討会で先生や仲間と議論しながら研究を進めていった経験も、大学でとても役立ちました。

辻 MSTで学んだ研究プロセスが大学の研究に活かしたんだね。

塩谷 はい。MST時代にラボにこもって研究していたので、その習慣が身につけていて、今も「知りたい」と思ったら衝動的に手を動かしてるんです（笑）。ものづくりを通じて新しい発見をする面白さを学べたのはMSTのおかげですね。

辻 大学ではどんな研究をしてるの？

塩谷 3Dプリンターを使って、柔らかい素材の変形をセンシング（感知）する研究をしています。色々な工夫をすることで、元の素材に新しい特性を持たせられるのが面白いです。

面白いです。

辻 材料の性質を活かして新しい機能を生み出すわけだね。塩谷さんは在学中から興味を持ったら何でも自分ですぐに試していたイメージがあったな。今は具体的にどんなものを作っているの？

塩谷 研究室が多分野にまたがっていたので、大学でも様々な分野に触れることができました。特にデジタルファブリケーション（デジタル技術を活用したものづくり）が面白かったですね。最近では、病院を視察して手足が動かかせない患者さんのために「頭で押せるナースコール」を作りました。実証実験も行い、頭の動きで看護師さんに通知を送るデバイスを開発しました。

辻 興味を持った問いを突き詰めていくことが、世界に貢献する技術につながっているんだよね。

目指す未来 — 3Dプリンターが当たり前の世界へ

辻 進学する大学院についても教えてくれる？

塩谷 材料の特性を動的に変化させることで、新しい体験をデザインする研究室で学

びます。私は密度の変化が見える構造を作り、力を加えられたときに検知できる仕組みを研究しています。

辻 材料そのものにインタラクティブな特性を持たせる研究なんだね。将来の夢や目標はある？

塩谷 紙のプリンターのように、3Dプリンターがもっと身近に使える未来を実現することです。少しの工夫で、誰でも形をカスタマイズし、自分の用途に合ったものを作る世界を目指しています。中学時代に持った夢と本質的には変わってないですね。今は、ものづくりを通して問いを明らかにすることに心がかります。

問いから始まるものが科学

辻 塩谷さんにとって「科学」とは？

塩谷 「問いから始まるもの」ですかね。3Dプリンターを使うだけとかではなく、何を知りたいのかという問いがあることが大事だと思います。

辻 確かに、問いを持つことが科学の本質だね。校名が「三田国際科学学園」に変わったけど、どう感じる？

塩谷 私は中学でインターナショナルクラ

ス、高校では新設されたMSTに進学し、両方の良さを経験しました。校名変更は2つの要素がより明確になった感じがして納得できます。

辻 今後、MSTに期待することはある？

塩谷 私が在籍していた頃はラボに3Dプリンターなどはなかったですが、今は設備が充実しているので、ものづくりの幅が広がっていいなと思います。

辻 では、在校生や未来の入学生にメッセージをどうぞ。

塩谷 三田は、自分の考えを話せば先生方が一緒に考えてくれるし、それを実現できる環境があります。興味をどんどん深められる場所なので、面白いことに出会えるはずですよ。

辻 三田を一言で表すと？

塩谷 「芝生」ですね。最初は何も無いように見えても、土には栄養があり、どんどん成長できる場所です。

辻 メタファーで来たね（笑）。ありがとうございました。

塩谷 ありがとうございます（笑）。

*2025年2月取材。

Special InterviewはInternational編 p.15に続きます。

SCIENCE EDUCATION

サイエンス教育

VISION | 世界を深く理解し 学び続ける技法

なぜだろう、どうしてだろう…？ 目の前にある不思議に気づいたとき、それを言語化し理解を深めていく技法がサイエンスです。文系・理系という教科の枠をはるかに飛び越え、論理的に考える能力や、ひらめきを生み出す方法は誰もが身につけることができます。本校では、入学1年目からあらゆるプログラムが科学的アプローチサイクルを軸に展開していきます。その中で様々な社会課題に立ち向かえる力を育てます。

「問い」を立てる技術 思考と行動のサイクルを繰り返す

Questioning Skills

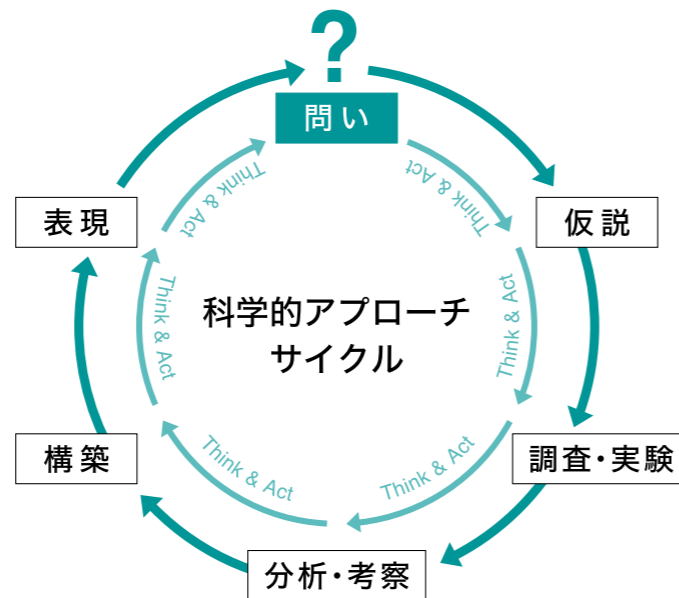
日常の気づきから問いを立てる

日常の中で出会う感動や小さな気づきを言語化することで、誰もが「問い」を立てることができます。問いを立てる技術や、問いを磨く技術を学ぶことで、より良い「問い」を設定する力を身につけていきます。

Scientific Method Cycle

課題解決のサイクルを理解し実践する

本校では、全教科において科学的アプローチサイクルを取り入れ、論理的思考力や課題発見力の育成を重視しています。生徒は「問い」を立て、仮説を形成し、その検証方法を考えます。既存の情報にとどまらず、アンケート調査や実験を通じて客観的なデータを収集・分析し、得られた結果から意見を構築し、他者に表現します。さらに、他者からのフィードバックや自身の振り返りによって、新たな視点から問いを生み出します。この一連のプロセスを通じて、深い思考力や問題解決能力を養い、社会の諸問題を科学的視点で解決していく力を培います。



サイエンスリテラシー 中1全クラス

6年間の基礎となるサイエンスの技法を学ぶ

データの読み解き方や表現方法、AIとの付き合い方や活かし方を学び、「問い」を深める力を身につけます。

■ 1年間の取り組み例 *2025年度

1学期 | 出会い、気づく

- サイエンスリテラシーとは？
- 問いを立てる
- 情報を疑う
- 思考のクセを知る

2学期 | 深め、実践する

- フィードバックリテラシー
 - データリテラシー
- 夏季・冬季休暇を活用した
サイクルの実践

3学期 | つなげる

- 研究を科学する
- AIリテラシー
- 将来を見据えてゼミを選ぶ

■ 授業例

問いを立てるところからスタートする

登校中の風景や教室内という限られた環境で「問い」や「仮説」を立てる練習を行います。科学的アプローチサイクルが書かれたシートを使って仮説を検証していきます。仮説やプロセスをクラスで発表し共有することで、他者の視点を得て身近な世界を新たな視点から捉え直すことができます。

生徒が考えた問いの例

- 犬を飼うと癒されるのはなぜ？
- なぜ最近、街でスズメを見かけないのか など



6年間のサイエンスプログラム

クラスやコースの特徴に応じてプログラムを用意しています



中学 1 年生

サイエンスリテラシー
科学的な技法の基礎を学ぶ



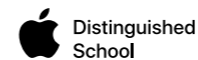
中学 2～3 年生

ゼミナール
興味のある分野で探究を深める



高校

プロジェクト・研究活動
中学での学びを発展させる



学習、指導、学校環境の継続的なイノベーションに取り組み学校であることが、Appleによって認定されました。

自由な発想をかたちにするICT

本校のICT教育のスローガンは「BUILD＝築き上げる、形成する、将来を描く」。生徒は、1人1台用意されたタブレット端末またはノートパソコンを、実験の記録や分析、プレゼン資料や映像の作成、プログラミングなど、様々な場面で活用しています。ICTは、自由な発想をかたちにしていくパートナーです。本校の取り組みが認められ、2016年より「Apple Distinguished School」に認定されています。

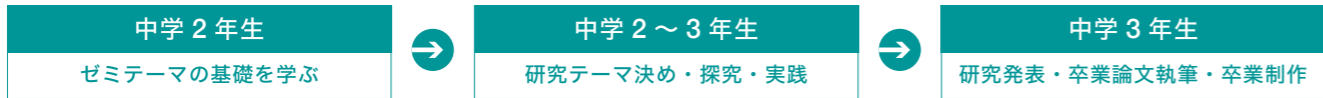
中学 あなたはどんな研究やプロジェクトに挑戦しますか？



ゼミナール 中2～3

自分の興味を深め
研究やアクションに挑戦する

中学1年生で取り組んだサイエンスリテラシーを実践する場として、中学2年生から3年生ではゼミナールが設けられています。主体的に自分の興味や好奇心に向き合い、計画を立て探究活動に取り組みます。中学校の集大成として卒業論文などの最終成果物を提出します。言語化や具体化の力が身につくだけでなく、目標達成に向けて取り組む力が育まれます。



ゼミナールの特色

- ISC 基礎ゼミナール** → p.23へ
社会課題解決、芸術、経営、情報科学など多様な分野からゼミ選択が可能です。
- MSTC 基礎研究α** → p.27へ
理系・情報分野に特化して研究の基礎を学び、研究者への第一歩を踏み出します。
- IC Academic Seminar** → p.32、p.33へ
英語力に応じたグループごとに All English のゼミが設置されています。

「アートに・ことばを・文学する」ゼミに所属

意味を保留し世界との関係を組み替える芸術の力

高校1年 | M・Rさん



Q1. どのような関心があって今のゼミを選びましたか？

現代の芸術や社会の場で、言語は理解や正解をすぐに要求してしまうものとして機能していると感じていました。「わかる／わからない」という二択の考えが先行すると、言葉にならない感覚はすぐに切り捨てられてしまいます。芸術は、理解や意味を急かさず、定義されない感覚を残すことで、人がどう世界を感じて、どんなふうにいるのかを問い直すものだと思います。どうして人は、わからなさに耐えられず、美や意味を固定したがるのかという関心でこのゼミを志望しました。

Q2. ゼミはどのような環境でしたか？

意見を交わしやすい環境でした。真面目さと面白さが自然に混ざり合う雰囲気がとても心地よかったです。形式にとらわれない授業も多く、毎回本当に楽しかったです。

Q3. ゼミで学んだことは何ですか？

人は、「わからないこと」よりも、「わからない側に置かれること」に耐えられないのかもしれない。言語が意味や価値を即座に固めてしまう社会で、定義しない感覚やそれを引き受ける姿勢を身につけられたと思います。表現を生み出す前に、既存の正解や価値観を疑い、保留する。芸術がなぜ今必要とされているのかは、答えを与えるのではなく、思考の速度を遅くし、世界との関係を組み替えるためでもあると思います。ゼミでの研究は、相手の見解や評価に振り回されず、自分の感覚と他者の存在を同様に引き受けるための思考の基盤を与えてくれたと思います。

中学2年

自分が影響を受けてきたものを掘り下げる

中学3年

1学期 テーマを整理し文章を作成していく
2学期 MIFで「芸術論(我々の存在とは)」について発表
3学期 研究の成果を卒業論文にまとめる

高校 自分の問いを深く広く発展させ より世界とつながる



コース特性に合わせたサイエンスプログラム

- ISC Liberal Arts** → 自身の興味・関心からテーマを設定し、「問い」を原動力に社会へ働きかける PBL 形式の授業です。
- MSTC 基礎研究β** → 「自分だけの研究を持つ」をキーワードに、より専門性の高い研究を行い、学会などで発表します。
- IC DDP / AP** → 海外のアカデミックなプログラムで、英語で考え、論述する力を育みます。



博士号を持つ教員たちが伴走者としてサポート

本校には博士号を持つ8名の常勤教員に加え、専門性を持ったスペシャリストたちがおり、科学的アプローチのプロフェッショナルとして、サイエンス教育をリードしています。一人ひとりの好奇心を育みながら、生徒たちが自ら科学的思考のプロセスをたどって課題を発見し、解決していくことができるよう、伴走者としての役割を務めます。



Liberal Arts | リベラルアーツ 高校ISC

高校ISCの1年生から2年生にかけて取り組む「Liberal Arts」は、社会と接続しながら自分の興味や関心をさらに深める授業です。自分たちで計画を立て具体的な行動を起こすことで、課題を発見し、解決策を考え、実行する力が育まれ、主体的に学び続ける力が身につきます。

Liberal Arts Interview

テーマ：未来をつなぐ異文化プロジェクト～言葉と文化で世界を知る～

高校3年 | Y・Lさん O・Rさん I・Sさん I・Aさん



Q1. 活動を始めたきっかけと活動内容を教えてください。

留学を経て「海外の人に比べて日本人は他国のことをよく知らず、相互理解が深まっていない」と感じたことがきっかけで活動を始めました。海外の文化に興味を持つ次世代を増やそうと、公共施設などで子どもたちに向けて異文化交流イベントを実施しています。活動を続ける中で、英語以外の言語に対するハードルの高さと、日本人の失敗したくない心理の壁を感じたので、「伝わる楽しさ」に重きを置いたゲームを考案し実践しています。フランス語が読めなくても絵から意味を想像してオリジナルストーリーを作るというゲームは、特に印象に残っています。

Q2. 探究活動を通して得られたこと、今後挑戦したいことを教えてください。

最初はSNSでの発信だけでしたが、先生が紹介してくださったつながりから、どんどん活動の輪が広がっていききました。活動が認められて東京都の助成金をいただくことができ、活動を継続するための資金を得ることができたのも大きかったです。自分たちから積極的に声をかけて活動することで手伝っていただけることも多く、人とのつながりや関わりの大切さを実感しました。今後はカフェでもイベントを開催する予定です。後輩たちに活動を引き継ぎながら、次世代の方に興味を持ってもらい、海外で活躍する人を増やしていきたいです。

一人ひとりの探究を支える施設・設備

本校にはサイエンスラボ・カルチャーラボがそれぞれ3つあり、大学の研究室レベルの設備を整えています。本校では理科だけで週2回程度の実験が行われており、毎日毎時間どこかのクラスが実験を行っています。充実した設備を活用し、タブレット端末と連動してデータ分析をするなど、ICTを観察・記録に取り入れ、考察やプレゼンテーションに役立てています。



カルチャーラボ

3つのサイエンスラボにそれぞれ併設された施設で、微生物の培養などの無菌操作や、遺伝子組み換えなどの高度な実験も可能です。実験授業のほか、基礎ゼミナールや高校の研究活動でも使用します。



人工気象器

庫内の温度を一定に保ち、人工の光により昼夜を再現する装置。本校では、植物やミドリムシの培養に使用しています。



3Dプリンター

3次元ソフトウェアで作成されたデータをもとに、断面の層を積み重ね、立体モデルを造形する機器。工学系の研究や美術の授業などで、精密な立体模型やオブジェの制作などに活用しています。



安全キャビネット

微生物を取り扱う際、他の雑菌の混入を防ぎ、無菌状態で作業するための装置。実験者の安全を守るため、作業台の排気もフィルター滅菌されます。



リアルタイムPCR(qPCR)

生物のDNA増幅システムを利用して、狙った部分のDNAだけを増幅させるPCR法は有名です。qPCRではサンプル中のDNA量を測ることができます。

学びのかたちは1つじゃない

これからの世界を生きるうえで、「解なき問い」を自ら発見し、乗り越えていく力は不可欠です。

本校の教員も、生徒の力を最大限に伸ばす教育を目指し、

教科・学年の枠を越えて協力し合い、常に新たな教育の可能性を追求しています。

授業例



自由に実験を考える

酸化・還元で どんな実験ができるか？

酸化・還元反応をテーマにした実験を生徒が自由に考えます。教員がサポート役になり、生徒自身が仮説をどのように検証するかを考え、能動的に課題に取り組みます。クラス内外で実験のプロセスや結果を共有することで、多角的な視点からテーマを捉える力が養われます。

科学的アプローチサイクル

生徒が考えた実験例

- 写真はどのように現像されるか
- 消臭ビーズを自作する
- 牛乳で作ったプラスチックに野菜で色付けをする

数学×AR

「空間図形」を3D空間に創り出す

本校はSTEAM教育(Science / Technology / Engineering / Arts / Mathematics)に積極的に取り組んでいます。理数教育と芸術教育を融合することで、教科の枠組みを超えた自由な発想力と、課題発見・解決力を育みます。

STEAM

[授業の流れ]

収集

空間図形について学ぶ。



分析

紙面上でARアプリを用いて空間図形を多角的に捉え検証する。



構築・表現

身の回りのものを空間図形で表現し、制作した作品をクラスで共有することで、新たに世界を捉える目が養われる。



「ご当地ゆるるスポーツ」 を創ろう!

地理×保健体育×情報 プロジェクトを通して実践的に学ぶ

中学1年生では教科横断型のプロジェクトとして、老若男女、誰もが参加できる世田谷の魅力を活かした「ゆるるスポーツ」の共同開発に取り組みました。教科の枠を超えて、生徒は頭と体を動かしながら、ゆるるスポーツの「ルール設計」と「実践」のサイクルを回します。また、動画制作に加えて、開発したゆるるスポーツを表現するロゴのデザインなど、他者にわかりやすく魅力を伝えるクリエイティブな技術を楽しみながら習得していきます。

PBL

[授業の流れ]

地理 「世田谷区」を分析する

地形図と区の統計データを組み合わせ、世田谷区の特徴を分析し、魅力を見出す。



保健体育 「楽しい」を共創する

生涯スポーツの観点を踏まえて、世田谷の魅力を伝えるゆるるスポーツをグループワークにて創作する。運動の得意・不得意関係なく誰もが楽しめるストーリーやルールを設計し、実際に体を動かして検証する。さらに良いものへと改善を重ねる。



情報 「魅力」をデザインする

PR動画の制作を通じて、自分たちのメッセージをテクノロジーで効果的に伝える方法を学ぶ。



1学年で合計46のオリジナルゆるるスポーツが誕生。

<表彰実績>

■ 第5回ご当地ゆるるスポーツアワード 準グランプリ、入選



Zero to One (ゼロワン)

— 枠にとらわれない発想を、科学し、カタチにする。

「0」から「1」を生み出す。ここでは、自由な発想をサイエンスの視点で発展させ、社会へとつなげるクリエイティブな拠点です。

1F MAKE & PROTOTYPE

アイデアを、すぐにかたちにする実験場。

ガレージのような空間には、3Dプリンターやレーザーカッター、モデリング用のPCが揃っています。頭の中にあるアイデアを即座にプロトタイプ(試作)へと具現化できます。ロボットなどの製作も可能で、外側のシャッターを開ければ、完成した機体をそのまま外の世界へと運び出すことができます。

2F DIALOGUE & COLLABORATION

「対話」を通して、思考を昇華させる共創空間。

1フロアを広く使った開放的な空間。ここでは、多様な椅子やテーブルを自由に組み合わせ、そのときの議題に最適な対話空間を構築できます。ホワイトボードやモニターを使いながらチームでアイデアを出し合い、プロジェクト会議を重ねます。仲間との対話によって、個人のアイデアはより強固で価値あるものへと磨かれていきます。

3F INSIGHT & INPUT

「考えるスタイル」を選び、思考を深化させる。

新たな知識をインプットしたり、個人で深く思考したりするための多様なスペースが用意されています。

- Deep Thinking: 靴を脱ぎリラックスしながら、一人で思考を深めたり、哲学対話を行ったりする空間があります。
- Dialogic Learning: 可動式ホワイトボードを活用した少人数での対話や、講義を通じた知識の吸収。ニーズに合わせて学びの環境を選ぶことで、個々の思考やアイデアの発展につながります。

Special Interview 2

MITA × INTERNATIONAL



副校長

檀島 知哉

大学卒業後、オーストラリア・カナダ・イギリスの3か国で日本語教師として現地に勤務。帰国後は複数の進学校を経て、2014年4月より戸板中学校・女子高等学校（現 三田国際科学学園中学校・高等学校）に勤務。インターナショナル部門の責任者としてグローバル教育を推進し、2026年度より副校長を務める。

中学1期生（2015年入学）

館 史海

三田国際学園中学校1期生。中学・高校ともにインターナショナルクラス・コースに進学。在学中は帰国生との交流を通じて刺激を受け、英語力を磨く。イギリスのUniversity of Manchesterでマーケティングを学び、現在は国内の外資系企業で新薬の開発支援に従事。

「学ぶって、こんなに面白い」 学ぶ楽しさの実感が世界へつながる

中学1期生へのインタビューを通して、三田国際の10年の歩みを振り返る対談企画です。
International編では、当時まだ珍しかった海外大学進学を実現した館史海さんへのインタビューをお届けします。

三田で得た3つの力

檀島 三田でのどんな学びや経験が、海外で役立ちましたか？

館 大きく3つあります。1つ目は、ディベートで養えた自分の意見を表現する力。2つ目は、クリエイティブな活動で身につけた自由な発想で考える力。3つ目は、勉強への苦手意識がなくなり、学ぶ楽しさを実感できたことです。

檀島 デイベートの経験について、もう少し詳しく聞かせてもらえますか？

館 三田では少人数のグループで意見を交換したり、議論のテーマそのものを決めたりする授業があり、自然と自分の意見を伝える力が身につきました。そのおかげで、海外でも自信を持ってグループワークに参加できましたし、リーダーを任せられたときも三田での経験を思い出しながら行動できました。

檀島 確かに、三田ではディスカッションが多いですね。自然と自分の考えを表現できるようになる、まさに私たちが目指す学びのかたちですね。クリエイティブな面では、どんな活動が印象に残っていますか？

館 例えば、国語の授業で物語に基づいた動画を作成したことや、英語の授業でロールプレイを行ったことですね。自由な発想で表現してきた経験が、海外でのエッセイライティングにも活かされたと思います。

檀島 単に暗記するのではなく、考えを発信しながら学ぶプロセスが創造力を育てるのだと思います。勉強に対する意識の変化についても聞かせてもらえますか？

館 中学受験のときは「勉強はやらなければいけないもの」という感覚が強く、好きではありませんでした。でも、三田では話し合いやプレゼンテーションなどのアウトプット型の学びが多く、「勉強ってこんなに楽しいんだ」と気づけたんです。周りのレベルの高い人たちとの交流を通じて、「知ること」「つながること」の楽しさを実感できたのは大きかったですね。

世界が教室になる

檀島 マンチエスター大学にはどのような特色がありますか？

館 マンチエスター大学は多様性のある環境で、学生も教授も世界中から集まっています。

ました。異なる文化や宗教を尊重する価値観を学び、日本とは違う考え方に触れる機会が多かったですね。アウトプットの機会も非常に多かったです。約4か月かけてプレゼンの練習をしたり、授業でも先生が突然「どう思う？」と質問してくるので、その場で意見を言う力が試されました。

檀島 日本と海外では授業のインタラクティブ性が大きく違いますよね。特に印象に残っている先生はいますか？

館 経済学の先生ですね。とても陽気な方で、学生の答えが正解だったら机の上でタップダンスをするんです（笑）。まるでTEDトークのような授業で、「絶対に退屈な授業にはしない」という強い意志を感じました。

世界を知ること、未来が見えてくる

檀島 卒業後の進路について教えてください。

館 日本にある外資系企業で、新薬の開発支援を行う臨床開発の仕事に就きます。イギリスでの生活を通じて、日本の医療制度との違いに関心を持ち、調べるうちに、日

本でも重い病気で苦しむ方が多いことを知りました。そこで、自分にできることを考えた結果、医療に関わる仕事を選びました。

檀島 海外での経験から、以前は想像していなかった未来が広がったんですね。海外経験を通して可能性が無限に広がることを体現しているように思います。では、最後に海外大学を目指す後輩へのアドバイスをお願いします。

館 海外大学進学は、言語も文化も違い、知っている人もいない。完全にゼロからのスタートになります。でも、それが自分を成長させてくれるんです。自分にできること、できないことを知り、本当にやりたいことに挑戦できる環境があります。もし周囲の期待にプレッシャーを感じている人がいたら、一度リセットして海外で新たなスタートを切るのも、一つの選択肢として考えてみてほしいですね。

三田国際学園の中学1期生が、新社会人としての第一歩を踏み出し、あるいは新たな学びのステージへと進みました。本校も「三田国際科学学園」として、変化を恐れず、卒業生たちとともに成長し続けます。

*2025年2月取材。

INTERNATIONAL EDUCATION

国際教育

VISION | 「多様性」を教室へ 違いを受け入れ、ともに創る

言語、文化、生まれ育った環境、価値観…本校の教室にあふれる様々な“違い”は、まさに多様性そのもの。留学・海外研修などの多彩なプログラムも用意し、やり抜く力や折れない心、他者と共創するための豊かな国際感覚を培います。さらに、持続可能な社会を作る一員としての責任を引き受け、自分なりに貢献することも大切にしています。その可能性を限りなく広げるため、社会で「使える」英語を身につけていきます。



English Education | 英語教育

言語をもう一つ持つこと それは世界への扉を開く鍵

「使える」英語を身につける | 読む・聞く・話す・書く

Interaction

双方向のコミュニケーションな授業



ペアワークやグループワークによる協働学習

▶ 「Peer Teaching (教え合い)」を自然に行う

Autonomy

自律的な学びの姿勢



それぞれの目標に向かって自ら計画を立てる

▶ 次のステップの学びや挑戦につなげる

Authenticity

生きた英語に触れる



ITや国際生とともに学ぶ国際的な環境

▶ 多様な価値観や文化を身近に感じ、異文化理解へとつなげる

▶ 学んだ英語をすぐに使える環境により自然な発話・文法表現への理解が深まる

E-note | 自律的な学習習慣が語学力を確実に伸ばす

授業の予習・復習や文法の練習問題など、一日ごとに設定された内容に毎日取り組みます。教員もフォローアップを行い、生徒は日々英語で考え自分の言葉でまとめる習慣をつけていきます。



International Teachers

40名

本校のネイティブスピーカーの教員(IT)は、自律した思考をすること、自ら問題を解決することが奨励される環境で学んできました。その学びの経験を活かし、中学・高校すべてのクラス・コースに関わり、進路指導や受験対策、課外活動といった学校運営や教育プログラムの構築・実践において重要な役割を担っています。アクティブラーニングを中心とした学びによって批判的思考や問題解決のスキルを培っている三田生にとって、ITはロールモデル的存在になっています。

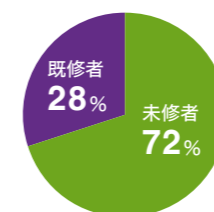
*2026年度時点

■ 数字で見る英語教育

英語学習歴に合わせた学びのかたち

英語ゼロベースからネイティブレベルまで、多様な英語学習歴の生徒が在籍しており、英語学習歴に応じたグループを設けています。

[入学時のISC英語学習歴]
(2024年度～2026年度入学生)

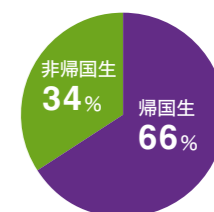


英語グループの詳細は p.21へ

海外大学進学という選択肢を持つ

本校では、非帰国生でも海外大学に数多く合格しています。進学時に海外大学も選択可能となる世界標準の英語教育を行っています。

[海外大学合格者数割合]
(2022年度～2024年度卒業生)



■ 個別最適化学習で力を伸ばす

英語の授業の多くはチーム・ティーチングで行っていますが、個人のレベルに合わせて様々なオンライン学習を活用しています。

[実施例] ● ELSA、DMM英会話を利用した発声練習 ● ライティング講座 ● スタディサプリでの苦手対策

■ 一人ひとりの目標に応じた検定サポート

個々の学習歴に応じて目標を設定し、英検やTOEFL®、IELTS™に挑戦しながら、学習へのモチベーションを高め続けます。また、海外大学進学も視野に入れた検定サポートも充実しています。国際生は、中学2年次～高校1年次に毎年PSAT®を受検します。TOEFL®やSAT®対策として、International Teacherによる講座やエッセイ指導も行っています。

*IELTS™ ケンブリッジ大学英語検定機構、ブリティッシュ・カウンシル、IDP Educationが運営する「読む・聞く・話す・書く」の4技能の能力を測る、国際的に認知度の高い英語能力検定試験です。

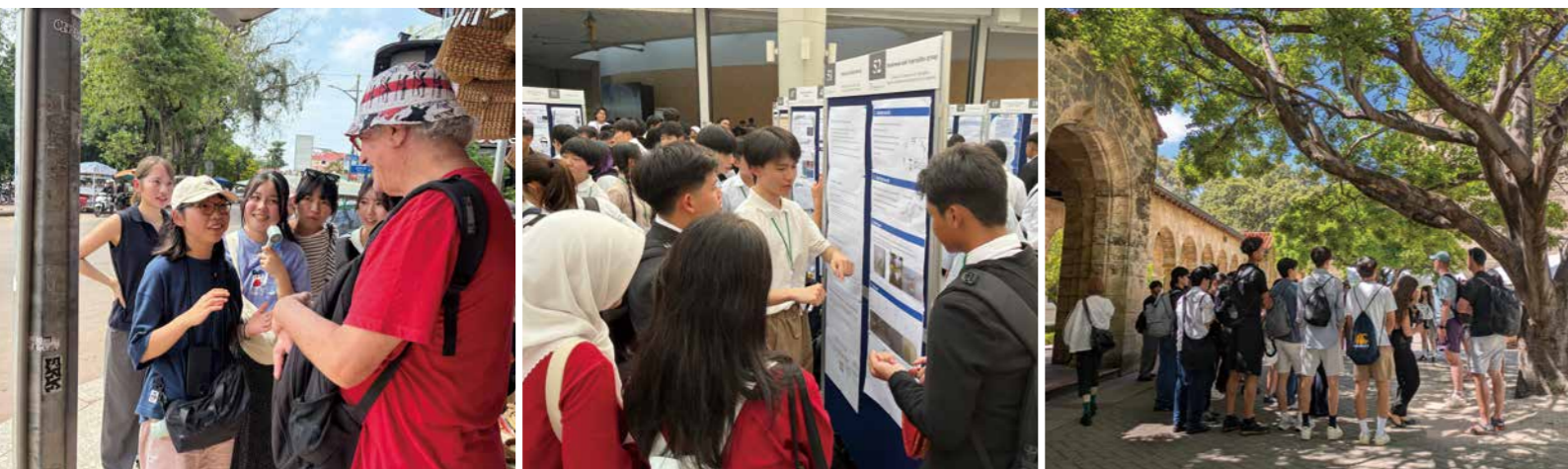
*SAT® College Boardが主催する、米国の大学進学希望者を対象とした共通試験です。

*上記は2026年度実施予定のプログラムであり、今後変更する可能性があります。
*プログラムによって、別途費用がかかるものもあります。

Study Abroad | 海外で学ぶ

海外研修 | 高校2年生 全員参加

高校ではコースごとに高校生活の集大成となる研修が設定されています。各国でしか体験することができないプログラムや交流を通して、文化や習慣、考え方や価値観などを学びます。実体験から新たな視点を獲得し、自身のキャリア形成へとつなげていきます。



IC インターナショナルコース

オーストラリア・パース

対象 高校インターナショナル 時期 高校2年次(約10日間)

先住民リーダーとの対話や五感を体験学習を通じ、学校での学びを豪州の地で「生きた知識」へと昇華させます。滞在中はパースの主要大学も訪問し、将来グローバルに活躍するために必要な資質を肌で感じることができます。自分のキャリアを世界視点で描く、知的好奇心に満ちた研修です。

MSTC メディカルサイエンステクノロジーコース

シンガポール

対象 高校メディカルサイエンステクノロジー

時期 高校2年次(約6日間)

アジア最大の中高校生研究発表イベント「Global Link Singapore」にて、英語で研究発表を行います。「基礎研究β」で取り組んできた研究成果を、世界各国の学生や研究者に向けて、ポスターセッション形式で発表します。

ISC インターナショナルサイエンスコース 選択制

台湾 カンボジア フィンランド

対象 高校インターナショナルサイエンス
*高校長期留学に参加した場合は、海外研修への参加は任意となります。
時期 高校2年次(約6日間)

ISCでは多様な選択肢からフィールドを選択できます。企業での研修や現地の学生との交流、社会課題の解決などの現地でも体験できない学びを経て、グローバルな視点に加え今後の進路選択へとつなげていきます。

詳細は [p.24](#)へ

*上記は2026年度実施予定のプログラムであり、今後変更する可能性があります。研修先や研修プログラムは、海外情勢や希望者数により変更となる場合があります。

国際交流で世界とつながる

「リーダーシップ」「共創」「異文化理解」などのコンピテンシーを育てることを目的に、生徒たちがグローバルな環境で学べるよう国際交流を盛んに行っています。これまで世界各地で本校の生徒や卒業生が温かく迎えられているように、私たちも世界に貢献することを目指して、積極的に提携校との交流や留学生の受け入れを進めています。

海外交流実績(2025年度)

本校 → 海外 100名以上(留学プログラム参加者)

海外 → 本校 150名以上(アメリカ、タイ、エストニア、オーストラリア、フランス 他5か国より)

海外大学進学に向けたサポートは [p.38](#) へ

海外大学進学者へのインタビューは [p.42](#) へ

留学 | 希望制

対象	中学		高校	
	ターム留学	長期留学	短期留学	長期留学
インターナショナルクラス・コース(IC)	●	●	●	
インターナショナルサイエンスクラス・コース(ISC)	●		●	●
メディカルサイエンステクノロジークラス・コース(MSTC)	●		●	

✈️ 中3 ターム留学

オーストラリア

対象 中学全クラス希望者

時期 中学3年次(約3か月間)

留学中の本校学費 授業料は半額、設備維持費・PTA会費は全額支払い

到着後、まずは語学学校で編入準備コースと現地生活についてのオリエンテーションを受けます。その後、現地校にて授業を受けます。中学のうちに留学を経験することで視野を広げ、英語力をさらに伸ばしていきます。

✈️ 中3 長期留学

ニューージーランド

対象 中学インターナショナル希望者

時期 中学3年次～高校1年次(約8か月間)

留学中の本校学費 授業料は半額、設備維持費・PTA会費は全額支払い

留学生が安心して暮らせる環境で、ハイレベルな教育による英語力の伸長に加え、異文化理解も深めることができます。帰国後は、本校の高校ICプログラムへスムーズに移行することができます。

✈️ 高校 短期留学(スプリングキャンプ)

アメリカ・カリフォルニア

対象 高校全コース希望者

時期 高校1・2年次(約10日間) ※MSTCは高校2年次のみ

留学中の本校学費 通常通り

アントレプレナー教育や様々な社会問題についてのディスカッション、フィールドワークを行います。ホームステイによる異文化体験もできます。

✈️ 高校 長期留学

アメリカ・カリフォルニア

イギリス・ヘイスティングスなど

カナダ・バンクーバーなど

対象 高校インターナショナルサイエンス希望者

時期 高校1年次～2年次(約10か月間)

留学中の本校学費 授業料は半額、設備維持費・PTA会費は全額支払い

*本校の留学プログラムにおいては、いずれも帰国後は年齢通りに進級できます。留学費用の積み立てはありません。費用は選択する地域や学校、為替レートの変動により異なります。
*現地での滞りは高校長期留学のイギリスのみとなり、その他はホームステイとなります。
*現地受け入れ先の状況などにより選考を行うことがあります。
*上記は2026年度実施予定のプログラムであり、今後、時期・内容・行き先などは変更する可能性があります。

Study Abroad Experience Reports | 海外体験レポート



海外での学びを行動に 未来への一歩を踏み出す

高校3年 | S・Mさん 高校長期留学(アメリカ)に参加

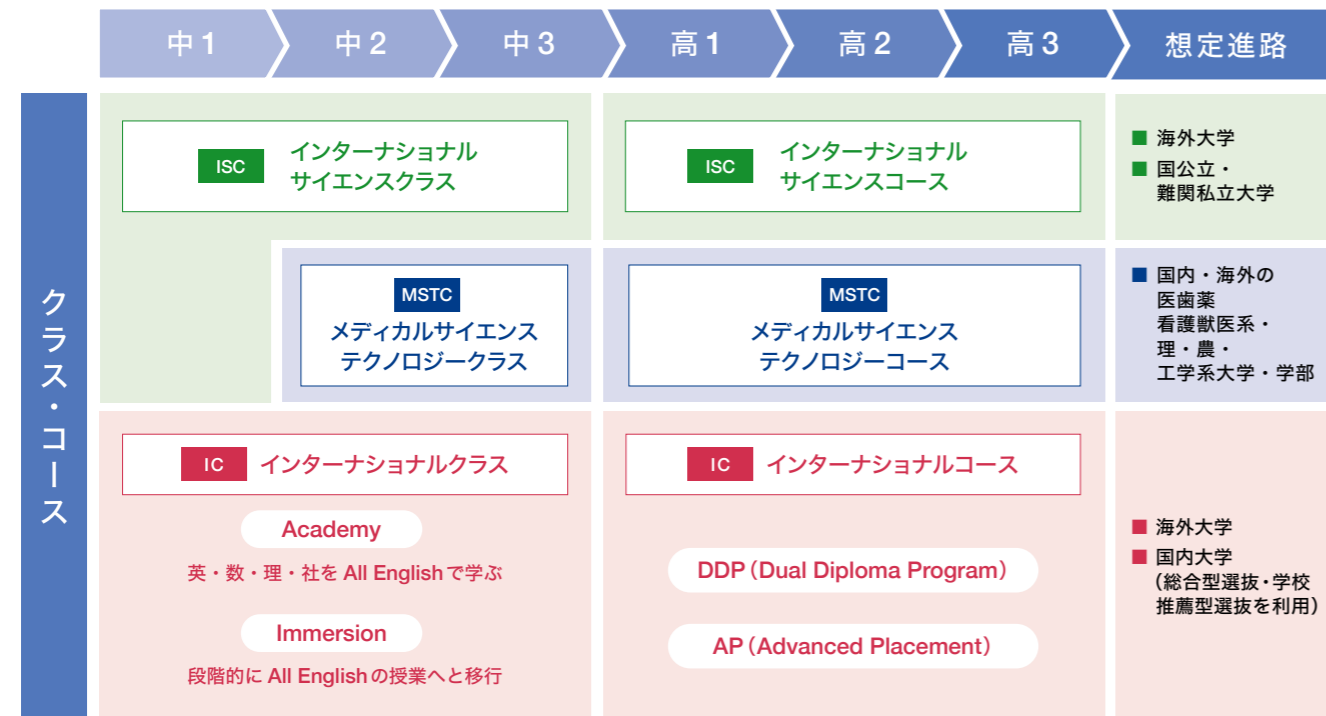
留学は、英語力はもちろん、一人の人間として私を成長させてくれました。留学前の私は、相手の英語を理解できても、すぐに英語で返すことができませんでした。しかし帰国時には、自分の考えを即座に英語で伝えられるようになり、成長を実感しました。また、留学中に身の周りのことを自分で管理し問題に向き合ったことで、生活力がつき行動力や問題解決能力も伸びたと思います。現地の学校では、ボランティアとして日本語指導に携わりました。日本語を教える中で、日本語を第二言語として学ぶ生徒の視点に触れたことは、新鮮な経験でした。帰国直前に生徒たちからももらった寄せ書きは、今でも大切な宝物です。私は、留学の経験をインプットだけで終わらせては意味がないと考え、帰国後は留学の魅力を伝える有志団体の代表として活動しています。留学が、英語力だけでなく人間としてのキャリアを積み将来を広げる第一歩になることを、自分には関係ないと感じている人たちにも、自身の経験を通して伝えていきたいです。そして将来は、留学により広がった視野を活かして、海外の人とつながる職業に就きたいです。

EDUCATION ROADMAP

6年間のロードマップ

社会へ そして 世界へ羽ばたくための6年間

これからの時代を生き抜くためのキーワード“THINK & ACT”“INTERNATIONAL”“SCIENCE”を軸に、中学には3クラス、高校には3コースを設置しています。生徒たちは自分の興味や強みに応じた場所で、将来の目標を実現する力を磨いていきます。



*上記は2027年度入学生用プログラムの予定であり、今後変更する可能性があります。
 *中学1年次はICとISCの2クラス編成、中学2年次以降はMSTCも加わり3クラス編成となります。
 *各クラス・コースは、6年間の学びのプログラムとして設定されていますが、高校進学時のみ、成績や学習態度などを総合的に判断して移動できる場合があります。
 *ただし、定員の状況によっては移動できない場合があります。その他の学年進級時には、中学MSTCを除き、原則コース変更をすることはできません。
 *中学2年次のMSTCへの進級については、中学入学試験方式や成績、学習態度、定員などを考慮して、総合的に判断します。

英語学習歴に合わせた英語グループ

英語の授業は、英語の学習歴に合わせて習熟度別に行います。クラスによって学ぶ言語に大きな違いがあります。

英語学習歴	入試形態	クラス	グループ	特徴
これから英語を本格的に学び始める	4教科入試	IC	Immersion	英・数・理・社を英語で学ぶ 中学では日本語から段階的に移行
		ISC	Standard	英語のみ日本人教員と International Teacher による チーム・ティーチング
	MST入試	MSTC		
海外経験がある 相応の英語力がある	帰国生入試 英語入試	IC	Academy	英・数・理・社を英語で学ぶ
		ISC	Advanced Intermediate	英語のみ International Teacher による All English 授業
	帰国生入試 英語入試	MSTC		

*ISC・MSTCの英語のクラス分けは、入学時のアセスメントテストおよび進級時の学年末の成績により決定します。



多様な選択肢が「面白い」をかたちに

一般生と国際生がともに学ぶ多様性にあふれた教室の中で、豊富な探究機会を活かし自分の興味を広げ深めることができます。

POINT | 自分の可能性に挑戦する

- International Teacher が副担任としてホームルームや行事に関わる
- 中2からMSTCに在籍可能 詳しくは p.27へ
- 幅広い分野から選択可能な探究プログラム
- 高校2年生で文系・理系に分かれる、選択肢の多様なクラス



中学

インターナショナルサイエンスクラス 多様な環境で共創しながら学ぶ

一般生と国際生が同じクラスで学びます。日本語と英語が飛び交う多様性に富んだ環境です。1年次はMSTCの生徒とともに学びます。

高校

インターナショナルサイエンスコース 希望する進路に合わせた カリキュラム選択

1年次は主要5教科をバランス良く学びますが、2年次からは希望の進路に合わせた選択・自由科目を取り入れており、国内・海外ともに文系・理系の受験に対応しています。

中学 基礎ゼミナール

「知りたい」をもっと深める

生徒の好奇心を最大限に引き出し育むサイエンスプログラムが、中学2年次から始まる「基礎ゼミナール」です。ISCでは幅広い分野からゼミを選択することが可能です。自分の興味に基づき選んだ講座で、自ら課題を設定して調査・研究を行い、研究結果を作品やポスターにまとめて、学園祭などで発表します。中学3年次の最後には、卒業論文執筆や作品発表を行います。目標に向けて計画する力や、アカデミックライティングのスキルを身につけます。



[開講講座例] ※2026年度実施

グループ	講座名
言語と文学とアート	アートに・ことばを・文学する
	つながるアート
	メディア・クリエイション
個人と社会	経営実践講座
	政治研究会
	社会を読み解く10章
	心を科学する
	歴史探究
	ボランティアはじめの一步
	学習と習慣の科学
SLL (ソーシャルリンクラボ)	
自然科学	コ・デザイン研究ラボ
	微生物に目を向けよう
	伝える化学
	数学オリンピックに挑戦
コンピュータサイエンス	暗号と数理解析
	Unityを味わう
	データと遊ぼう

高校 Liberal Arts

「好き」で社会とつながる

高校1~2年次に設定された「Liberal Arts」は、中学までの学びをベースにしなが、より探究的・実践的に社会接続を目指すPBL (Project Based Learning)形式の授業です。自分自身の興味・関心に基づきテーマを設定し、それに対して感じた「問い」を原動力としなが、学校にとどまらず社会に対して働きかけていきます。実社会とつながりなが、自らの価値観と行動を社会に問いかけ、変革をもたらす人材の育成を目指します。

〈プロジェクト例〉2025年度は100以上のプロジェクトが活動

- 3Dの可能性〈映像探究〉
- WAKEARI in わじま〈被災地支援〉
- 盲導犬の可能性を広げる〈共生社会〉
- 「Pick&Play」で遊びの選択をもっと楽しく、自分らしく。〈アプリ開発〉
- 私の地域の火災対策〈防災〉
- 昔話を通じて世界の子ども達に日本を伝える〈文化交流〉



英語力に応じた3つの授業展開

ホームルームクラスは英語力に関係なく編成されますが、英語の授業は習熟度別に3つのクラスで展開します。英語力の向上に合わせ、ステップアップしていくことが可能です。国際生も、高い英語力を維持しながら日本語で思考し表現する力を伸ばすことができます。

	Standard	Intermediate	Advanced
対象	英語の学習歴は問いません	相応の英語学習歴のある生徒	帰国生などネイティブスピーカーレベルの英語力のある生徒
英語	日本語による授業に加え、International Teacher 主体のチーム・ティーチング	International Teacher の All English授業	International Teacher の All English授業

英語のクラス分けは、入学時のアセスメントテストおよび進級時の学年末の成績により決定します。

クラス環境と日々の努力の積み重ねで着実に伸ばす

中1 Standard ▶ 中2 Intermediate に選抜
習熟度別ステップアップケース

中学3年 | I・Eさん



Q1. ISCクラスの英語環境をどのように感じていますか？

ISCでも同じクラスに帰国子女の生徒がいるので、休み時間に英語で会話をしています。日常的に英

語に触れる機会が増えたことで、リスニング力が上がり、文章を書くときも単語がスムーズに出るようになりました。中1のStandardでも英語でプレゼンテーションをする機会が多く、はじめは翻訳しながら台本を作成していましたが、中1の終わり頃には、自分で文章を書けるようになってきたと実感しました。

Q2. Intermediateに入るために努力したこと、授業の様子について教えてください。

テストだけでなく日々の積み重ねが大事だと思い、課題に一生懸命取り組みました。Intermediateの授業は2種類あり、1つは英語で書かれた本を読んだり英語でエッセイを書いたりして表現力を高める授業、もう1つは教科書を使って文法を学ぶ授業です。授業がすべてITの先生により英語で行われるので、知らない単語や表現が多くて大変ですが、わからないときはすぐに調べて教科書に

書き込むようにしています。また、あとで授業を振り返ったときに理解しやすいようにメモを沢山取っています。問題を間違えたときは、なぜ間違えたのか考えることも意識しています。今は少しずつ英語で行われる授業にも慣れ、自分の成長を感じられるようになってきました。

Q3. 今後の目標について教えてください。

もっと英語に対して前向きな意識を持つことです。間違えることを恥ずかしいと思わず、失敗をしながら自分の成長につなげられるようになります。近いうちに英検準1級に挑戦するつもりです。そしてスピーキングの苦手意識を克服し、自分の意見を英語できちんと伝えられるようになることが目標です。英語をスラスラと話しているAdvancedの友達にいつも憧れを感じているので、私も友達と英語で話せるようになりたいと思っています。

✈ 海外研修 (長期留学参加者を除き必修)

高校2年次の海外研修において、ISCでは多様な選択肢からフィールドを選択できます。現地での学びを経てグローバルな視点に加え、今後の進路選択へとつなげていきます。



台湾

アジアトップのジェンダー平等や資源回収率を誇り、大規模なデジタル革命など優れた取り組みを数多く行う、台湾。先進的な活動を行う現地法人での研修や、現地学生との交流などを経て、文化や価値観の違い、共通点を理解しながら、今後のキャリア形成に活かします。



カンボジア

社会人フェローや大学生メンターのサポートのもと、地域の事業者や起業家が抱える経営課題からその先に存在する社会課題の解決に挑みます。生徒自身が分析から実行までを行い、現地でアクションプランを作成します。最終的には実現可能性を示しながら英語でプレゼンテーションを行います。



フィンランド

高い幸福度と経済を両立するフィンランドで、実際に働く人との交流を通してサステナブルな企業運営やウェルビーイング型経営について学びます。また、環境と持続可能な資源への取り組みを学ぶため、地質学的に世界でも稀少なナショナル・ジオパークでの水質研究活動なども行います。

*上記は2026年度実施予定のプログラムであり、今後変更する可能性があります。研修先や研修プログラムは、海外情勢や希望者数により変更となる場合があります。

Curriculum カリキュラム

中学 インターナショナルサイエンスクラス

1年				2年				3年						
国語	5	美術	1.3	国語	5	美術	1	国語	5	美術	1			
社会	3	保健体育	3	社会	3	保健体育	3	社会	4	保健体育	3			
数学	5	技術・家庭	2	数学	5	技術・家庭	2	数学	5	技術・家庭	1			
理科	4	道徳	1	理科	5	道徳	1	理科	4	道徳	1			
英語	6	総合	2.4	英語	6	総合	2	英語	6	総合	3			
音楽	1.3	特別活動	1	音楽	1	特別活動	1	音楽	1	特別活動	1			
			合計	35				合計	35				合計	35

・特別活動の時間には、年間計画に基づく各行事、各種講演会も含む。
 ・総合的な学習の時間には、宿泊行事を含む校外での社会体験、観察、実験、見学、調査なども含む。
 ・1年次の「サイエンスリテラシー」、2・3年次の「基礎ゼミナール」は総合的な学習の時間に含む。
 ※上記は2026年度入学生のカリキュラムであり、今後変更する可能性があります。
 ※メディカルサイエンステクノロジークラスへの変更に際しては、中学入学試験方式や志望理由、成績、定員数などを考慮して、総合的に判断します。

高校 インターナショナルサイエンスコース（文系/理系）

文系

1年			文系2年			文系3年			
必修	現代の国語	2	必修	古典探究	3	必修	古典探究	4	
	言語文化	3		現代文総合	3		現代文演習	3	
	歴史総合	2		地理総合	2		国語演習	2	
	数学I	3		公共	2		体育	3	
	数学A	2		数学II	4		英語コミュニケーションIII	3	
	物理基礎	2		体育	2		論理・表現III	3	
	化学基礎	2		保健	1		ホームルーム	1	
	生物基礎	2		英語コミュニケーションII	3		日本史探究α	6**	
	体育	2		論理・表現II	3		世界史探究α		
	保健	1		情報I	2		政治・経済		
	英語コミュニケーションI	3		総合的な探究の時間	1		地理演習		
	論理・表現I	3		ホームルーム	1		日本史演習	2*	
	家庭基礎	2		日本史探究	4		世界史演習		
総合的な探究の時間	2	世界史探究		政治・経済演習					
ホームルーム	1	数学B	2	数学C	2				
選択必修	音楽I	2	自由選択	化学基礎演習1		化学基礎演習2			
	美術I			生物基礎演習1	1*	生物基礎演習2	2***		
合計		34		合計		31-34	合計		25-33

理系

1年			理系2年			理系3年		
必修	現代の国語	2	必修	現代文演習	2	必修	数学C	2
	言語文化	3		地理総合	2		化学	4
	歴史総合	2		公共	2		体育	3
	数学I	3		数学II	4		英語コミュニケーションIII	3
	数学A	2		数学B	2		論理・表現III	3
	物理基礎	2		化学	3		ホームルーム	1
	化学基礎	2		体育	2		数学III	6
	生物基礎	2		保健	1		数学演習α	
	体育	2		英語コミュニケーションII	3		物理演習	4
	保健	1		論理・表現II	3		生物演習	
	英語コミュニケーションI	3		情報I	2		現代文演習	2
	論理・表現I	3		総合的な探究の時間	1		古典演習	2
	家庭基礎	2		ホームルーム	1		地理演習	
総合的な探究の時間	2	物理	4	政治・経済	2*			
ホームルーム	1	生物		数学演習β	2			
選択必修	音楽I	2	自由選択	古典演習	2	合計		26-34
	美術I			合計		32-34		
合計		34	合計		32-34	合計		26-34

*該当科目から1つまで選択できる。 **該当科目から1つを選択する。 ***該当科目から2つまで選択できる。

・総合的な探究の時間には、宿泊行事を含む校外での社会体験、観察、実験、見学、調査なども含む。
 ・1・2年次の「Liberal Arts」は総合的な探究の時間に含む。
 ※上記は2026年度入学生のカリキュラムであり、今後変更する可能性があります。

MSTC

MEDICAL SCIENCE TECHNOLOGY CLASS & COURSE

メディカルサイエンステクノロジークラス & コース



研究者として 踏み出す第一歩

1年次に多様性に富んだ環境で得た刺激やサイエンスサイクルを、研究という分野で積極的に活かし、未来へとつなげます。

大学並みの研究環境で、専門的な知識を持ったスタッフが研究をサポートします。

POINT | 自分だけの研究を持つ喜び

- 1 興味や好きを突き詰め、4年間研究に没頭できる環境
- 2 1年次はISCで学び、中2からスタートするクラス
- 3 国内外での研究成果を発表する機会の豊富さ
- 4 博士号を持つスタッフ・サイエンスコミュニケーターが研究をサポート



中学

メディカルサイエンステクノロジークラス
中2からMSTCがスタート

1年次にISCで学び、理数系や情報分野への意欲が旺盛な生徒は、2年次からMSTCに属します。専門性を深めた研究に挑戦し、創造的な発想を実践に活かします。

高校

メディカルサイエンステクノロジーコース
目指す進路

カリキュラムは、理系学部への進学を想定して国内・海外どちらの受験にも対応しており、希望の進路に応じて選択・自由科目を選ぶことができます。また、総合型選抜・推薦入試を視野に、研究分野のプレゼンテーションの指導も行います。

[開講講座例] ※2026年度実施

分野	講座名
科学	科学の目を養う
数学	自分で創る数学
プログラミング	Tech!
化学・芸術	焼き物を科学する
物理	本気で物理する

中学 基礎研究α

世界で最初に発見する喜び

中学1年次に「サイエンスリテラシー」で身につけた科学的アプローチを実践する場として、2年次からは「基礎研究α」が始まります。自分の興味に基づいて講座を選択し、研究課題を設定して自ら調査・研究を行い、紀要にまとめます。この研究活動は高校MSTCで行う「基礎研究β」へと発展的に引き継ぐことも想定しており、4年にわたって1つのテーマを研究することも可能です。



研究のサイクルを回すと授業もつながり始める

高校 MSTC 1年 | N・Rさん

研究テーマ

金属調釉薬とビスマスを用いた釉薬の作成

金属のような金色のビスマスを以前作ることができた経験から、ビスマスの結晶が持つ紅色のような色を釉薬で再現できた面白いのではないかと考え、ビスマス釉薬の研究を始めました。研究を進める中で、本来は結晶の配列によって色が現れるはずのビスマスが透明になる現象に出会い、この謎を解明するために、ビスマスを含む透明なガラス状材料の研究も行いました。最近になって、ビスマスが耐熱容器「るつぼ」に含まれるアルミナという物質や土の細孔に浸透したときに、透明層が確認できました。

Q1. 研究で面白かったこと、自分が成長できたことはなんですか？

実験で仮説とはまったく違う結果になり、わからなくなることがありますが、繰り返し実験をすることで徐々に現象を理解できるようになる過程が面白い。また、常に研究で問いから始まるサイクルを回していたら、理科の授業をビスマス釉薬の研究にも結びつけたりできるようになって、物事の結びつきに気づくことができるようになりました。

Q2. サイエンスリテラシーは役立っていますか？

問いを立てる力が身についたと思っています。問いのサイクルを今まで回してきた分、日常でも問いを

見つけやすくなりました。問いが立つとその物事をずっと考えて、それが解決したらまた次の問いが出てきて、という感じでずっと連鎖していってます。長いスパンでも必ずまた問いに戻ってくるというのが習慣化されましたね。それがサイエンスリテラシーの良さだし、研究にもつながっていると思います。

Q3. 今後の目標があれば教えてください。

ビスマスは人間にとって少し有毒な物質ですが、その魅力的な色を釉薬で出し、食器として安全に使えるようにしたいです。高校では安全性にも注目しながら、釉薬の研究を続けていきたいです。



ビスマスを焼成したときにできたガラス片

高校 基礎研究β

自分だけの研究を持つ

高校1～2年次の「基礎研究β」は生徒一人ひとりがテーマを設定して研究活動を行うプログラムです。専門的な研究分野を持つ教員やサイエンスコミュニケーターが伴走しながら、生徒は自ら計画を立てて研究を進め、自律した研究者としての姿勢を培っていきます。

[研究テーマ例]

- 寒天の濃度と放線菌の成長への影響
- 小脳の機能抑制がゼブラフィッシュの社会性に及ぼす影響
- ミツバチの鏡像自己認知能力の検討
- 膜貫通タンパク質の構造的特徴と疾患関連性の解析
- Duan-Simon 基準に基づくスペクトル線強度を指標とした量子もつれ検証の理論解析



災害対応ロボットー見る側でなく作る側になるー

高校 MSTC 2年 | A・Sさん

研究テーマ

新たな不整地走行ロボットの開発

昔から先進的な技術に興味がありましたが、「見る側でなく作る側になりたい」と思い、ロボットの研究を始めました。「災害対応ロボット」に着目したとき、既に多くの研究が行われていたため、自分の研究に独自性を出すことが課題でした。先行研究では操作が大変そうだったので、ドローンをサポートとして用いることで、不整地をより容易に走行できる方法があるのでは、と考えました。ドローンは障害物を乗り越えられる一方で継続稼働時間が短く、地上移動ロボットは長時間稼働できるものの走破性に課題があります。それぞれの長所を生かし、短所を補い合うロボットの開発を目指そうと思いました。

Q1. 研究で面白かったこと、自分が成長できたことはなんですか？

研究で面白いと感じるのは、今まで「やったことのないこと」ができたときや、「知らなかったこと」を知ることができたときです。僕は研究での経験が初めてのことが多かったので、行う作業すべてが新鮮でした。成長できたことは、研究に関する知識はもちろん、「自分の研究を伝えるにはどのように表現すればいいか」ということを考えることが多かったので、人に伝える力ですね。あとは継続力です。夏休みもロボットを組み立てるために学校に通ってました。外部で発表できるものを作りたいという目標があったので、本当によくラボに通ってましたね。進捗報告会が毎週あるので、研究に取り組み始めてからは「自分が始めた研究だから極力全部答えられるようにしておこう」と思うようになりました。

Q2. MSTCはどんな雰囲気ですか？

とても明るくて、様々な考えや趣味、個性を持った人がのびのびと生活しているクラスだと思います。各々が多様な興味関心を持っていて、それぞれ違うテーマで研究をしています。クラスメイトと話しているだけでも、色々な分野の情報や研究を知ることができますし、自分の研究の話や議論もすることができてとても楽しいです。

Q3. 今後の目標があれば教えてください。

今はまだ試作段階の機能が多いので、実験を繰り返して実用性の高いものを作りたいです。また、その過程で外部発表にも積極的に参加して意見をもらい、先行研究をなるべく多く見つけて自分の研究に活かしたいと考えています。また、災害の環境を擬似的に再現した実験も行ってみたいです。将来的には、宇宙探査などに興味があります。災害対応ロ

ボットは必要な情報を収集するものですが、やっぱり未知のものを知るためのロボットというものを作ってみたい。自ら動いて知らないものを知ることができるってすごく楽しいことだと思います。

〈表彰実績〉

- 第11回 高校生国際シンポジウム 口頭発表 社会科学・社会課題分野 優良賞



外部での発表や研究が成長の場になる

学内での研究に加え、大学などの研究機関で最前線の学びをすることで、貴重な経験や知識を積むとともに、自分の研究や進路を新たな視点で振り返ることができます。今後、大学や専門機関との連携をさらに強化していく予定です。

- サイエンスキャッスル研究費 ものづくり0.THK 賞 2024 採択
- iGEM 2023 Grand Prize Winner High school (外部チームに本校生徒も参加)
- 東京大学 UtokyoGSC-Next (旧名称:東京大学 Global Science Campus) 第三段階選抜(研究室配属) (2021,2022,2024,2025)
- 東京農工大学 Global Science Campus 2021 採択

〈表彰実績〉

- 第57回国際化学オリンピック アラブ首長国連邦大会 銀メダル(2025)
- 文部科学大臣特別賞(2024)
- JSEC(高校生・高専生科学技術チャレンジ)敢闘賞(2024)、優秀賞(2022) 他日本ガイン賞(2023)▶日本代表としてリジェネロン国際学生科学技術フェア(Regeneron ISEF) 2024に出場
- Global Link Singapore 2025 Applied Science Category 2nd Prize, Basic Science Category SPECIAL FOCUS PRIZE-Presentation-
- 第20回 全国物理コンテスト 物理チャレンジ2024 優良賞
- 化学グランプリ 関東支部長賞(2024,2025)
- 第14回 高校生バイオサミット in 鶴岡 優秀賞、審査員特別賞
- 高校生理科研究発表会 奨励賞(2023)、優秀賞(2025)
- 水中ロボットコンベンション in JAMSTEC ジュニア部門 優勝(2023)、準優勝・JAMSTEC 特別賞(2024)
- サイエンスキャッスルワールド2025 口頭発表 優秀賞 他
- つくば Science Edge 口頭発表部門 銀賞(2023)・創意指向賞(2024)

※2025年度までの抜粋

Curriculum カリキュラム

メディカルサイエンステクノロジークラス(MSTC)は中学2年次からスタートするクラスであり、中学1年次はインターナショナルクラス(ISC)で学びます。MST入試の合格者は、中学2年次の進学時には優先的に選考されMSTCに在籍できますが、ISCに継続して在籍することも可能です。

※ MSTCの進級については、中学入学試験方式や成績、学習態度、定員などを考慮して、総合的に判断します。

中学 メディカルサイエンステクノロジークラス

2年				3年				
国語	5	美術	1	国語	5	美術	1	
社会	3	保健体育	3	社会	4	保健体育	3	
数学	5	技術・家庭	2	数学	5	技術・家庭	1	
理科	5	道徳	1	理科	4	道徳	1	
英語	6	総合	2	英語	6	総合	3	
音楽	1	特別活動	1	音楽	1	特別活動	1	
			合計				合計	35

- 特別活動の時間には、年間計画に基づく各行事、各種講演会も含む。
 - 総合的な学習の時間には、宿泊行事を含む校外での社会体験、観察、実験、見学、調査なども含む。
 - 2・3年次の「基礎研究α」は総合的な学習の時間に含む。
- ※上記は2026年度入学生のカリキュラムであり、今後変更する可能性があります。
 ※ MSTCでは、副担任に International Teacherはつきません。
 ※ 中学1年次のカリキュラムについては、インターナショナルサイエンスクラス p.25を参照。

高校 メディカルサイエンステクノロジーコース

1年		2年		3年				
必修	現代の国語	2	必修	現代文演習	2	必修	数学C	2
	言語文化	3		地理総合	2		化学	4
	歴史総合	2		公共	2		体育	3
	数学I	3		数学II	4		英語コミュニケーションⅢ	3
	数学A	2		数学B	2		論理・表現Ⅲ	3
	物理基礎	2		化学	3		ホームルーム	1
	化学基礎	2		体育	2		数学Ⅲ	6
	生物基礎	2		保健	1		数学演習α	4
	体育	2		英語コミュニケーションⅡ	3		物理演習	4
	保健	1		論理・表現Ⅱ	3		生物演習	2
	英語コミュニケーションⅠ	3		情報Ⅰ	2		現代文演習	2
	論理・表現Ⅰ	3		総合的な探究の時間	1		古典演習	2
	家庭基礎	2		ホームルーム	1		地理演習	2*
	総合的な探究の時間	2		選択必修	物理		4	政治・経済
ホームルーム	1	選択自由	生物	2	数学演習β	2		
選択必修	音楽Ⅰ	2	古典演習	2	合計	26-34		
	美術Ⅰ		合計	32-34				
	合計	34						

*該当科目から1つまで選択できる。

- 総合的な探究の時間には、宿泊行事を含む校外での社会体験、観察、実験、見学、調査なども含む。
 - 1・2年次の「基礎研究β」は総合的な探究の時間に含む。
- ※上記は2026年度入学生のカリキュラムであり、今後変更する可能性があります。



世界に直結する 圧倒的な国際環境

圧倒的な国際環境で、一般生と国際生がともに支え合いながら、英語を駆使して世界に貢献できる人材への成長を目指します。

POINT | 英語で学びを深める

- 1 英語・数学・理科・社会を All English で学ぶ
- 2 International Teacher が担任としてホームルームや行事に関わる
- 3 高校では海外のカリキュラムで学ぶ
- 4 一般生も在籍し、国際生と刺激し合い成長する



中学

インターナショナルクラス

お互いを理解し高め合う文化
日本で海外の学びを実践する

本校の中でも特に国際色豊かなのがICです。英語・数学・理科・社会(主要教科)をAll Englishで学びます。国際生が学ぶAcademyグループとこれから英語を本格的に学ぶImmersionグループは、主要教科以外の授業を同じ教室で受け、学校行事や宿泊研修にも協力して取り組むなど、ともに成長する環境があります。



中学 | Academy group

国際生

英語で考え行動する
世界を視野に学びを発展させる

日本と海外の学びを高いレベルで融合し、日本の学校文化に触れながら、英語での学びをより充実させます。アクティブな授業を通して、学びの土台となる思考力や、自分で学びを進める力を身につけます。

中学インターナショナルクラスの特徴

Inclusion & Collaboration 互いを高め合うクラス

担任はInternational Teacher、副担任は日本人教員
英語でホームルームを運営します

入学式の日からホームルームは基本的に英語で運営されます。Academyの生徒は海外での学びを継続することができ、Immersionの生徒は日常会話を通じて生きた英語を学ぶことができます。一条校として日本の価値観や文化も大切にしながらホームルームを行っています。



BUDDY SYSTEM バディシステム

AcademyとImmersionの生徒が2人または3人組のバディとなり、学習目標を1週間ごとに確認し合ったり、日常的な相談などを行うことで信頼関係を築きます。組み合わせはローテーションし、多様な価値観を認め合う環境を実現しています。



オリエンテーション合宿(中1)

ICは入学直後のオリエンテーション合宿で、チームビルディングを重視したプログラムを行います。異なる環境で育ってきた生徒同士が互いに尊重し助け合うことで、クラスの文化を醸成していきます。



Social Link Action(中3)

Social Link Actionは、地域で活動されている方々と連携し、課題解決型のプロジェクトに取り組む宿泊行事です。ICは、広島で平和教育や国際性を活かした活動を、地域の方々と協働しながら行います。

英語力に応じた2つのグループ

国際生
(帰国生や英語入試で入学した生徒)



Academy group p.32へ

これから本格的に英語を
学び始める生徒



Immersion group p.33へ

英語・数学・理科・社会は All Englishの授業を行います

各分野を専門とするInternational Teacherがアメリカ・イギリスのテキストとオリジナルの教材を使用しています。

Academyグループのみ 国語は基礎レベルクラスも設置

入学後に国語力を計るテストが実施され、基礎学習が必要な生徒は基礎レベルクラスで学ぶことができます。実力に合わせて1年ごとにステップアップも可能です。

Academyの探究授業 "Fusion"(中1-中2)

内側に生まれる"Spark Question"から、それぞれのプロジェクトに取り組んでいくPBL(Project Based Learning)型の授業を行います。挑戦の中で科学的アプローチサイクルを回します。

Academic Seminar (中2-中3)

選んだテーマをゼミナール形式で学び、探究活動を行います。1年次のサイエンスリテラシーに引き続き英語で実践し、アカデミックスキルを学びます。

[開講講座例]

※2026年度実施

- Urban Planning and City Life
- Lyric Lab
- The Sociology of Soccer
- Sports Science
- Memories
- The Science behind Art
- Fandom and Fave Life



楽しみながら自分を向上させる環境がある

高校 IC 1年(中学 Academy) | M・Nさん



Q1. ICクラスの雰囲気はどうですか？

クラスはとても賑やかです。多様な個性を持った生徒同士がお互いを尊重できる雰囲気があるので、居心地がとても良く毎日楽しく過ごしています。

Q2. 印象に残った授業について 教えてください。

英語の授業では主に、海外の伝統文学や小説に触れ、その物語のメッセージや背景を理解していきます。その中で最も印象に残っているのは、「初めてその物語を読む人でもテーマが理解できるよう

す。Immersionの生徒とも、普段から壁を感じることなく交流していて、とても仲が良いです。仲間と共創する場面が多いですが、ある意味ライバルでもあります。「自分も負けていけない」と自然に思わせてくれる環境だからこそ、これまで以上に努力する姿勢や向上心が身につきました。また、思ったことを率直に言ったり、思いついたら行動に移す人が本当に多いです。僕がザンビアに寄付をする有志団体を立ち上げたのは、現地で貧困の実態を目の当たりにしたことが大きなきっかけですが、行動しなければ何も変わらないということを感じられる、このクラス的环境も大きく影響していると思います。

な替え歌を作る」という授業です。替え歌を作る楽しさはもちろんありますが、想像力や表現力も求められる活動であり、英語力だけでなく多方面で成長できたと感じています。

Q3. 英語力は向上しましたか？

ネイティブの先生方からの手厚い指導、英語を使える仲間たちとの日々の授業、日本語が第二言語かと思うほど日常的に英語が飛び交う環境で、英語力は維持にとどまらず向上したと強く感じています。All Englishというある意味での縛りは、楽しく充実した学校生活につながる、ICならではの魅力だと感じています。授業のレベルもとても高く、表現力や論理的思考力など、様々なスキルが同時に鍛えられたと感じています。その結果、自分の考えや伝えたいことを、まるでネイティブスピーカーのように英語で無意識に表現できるようになりました。



中学 | Immersion group 一般生

英語で学び 困難を乗り越える 世界に貢献する人材を育てる

Immersionグループでは、本格的な英語学習が未経験でも、「将来、国際社会に貢献したい」という強い思いを持った生徒が飛躍的に成長する国際環境があります。



高校

インターナショナルコース

MITA



海外のプログラム

2つのグローバルな教育プログラムから、自分の目標や適性に合わせて、最適なグループを選択できます。

Immersionグループの3つの柱

1 英語の世界に飛び込む

限られた知識や経験を駆使しながら必死に英語で乗り越えることで、適応する力、推測する力、GRIT(やりぬく力)が養われます。

2 Academic Skillsを身につける

エッセイライティングなどの技法を身につけます。

3 CLILの実践

様々な教科を英語で学ぶ「CLIL」を実践することで、内容と言語がつながり、実践的な英語力を伸ばします。

段階的にAll Englishでの学習へ

このグループでは、英語で考え、英語で他教科を学ぶことが求められます。英語ゼロベースの生徒も段階的に英語での学習割合を増やしながら、中学3年次には主要教科をAll Englishで学習していきます。

[サポート体制] ※2026年度実施

- After School Session(放課後セッション)
- English Camp (集中英語合宿)
- オンライン英会話の活用
- 定期的な個別面談の実施 など

Academic Seminar (中2-中3)

Immersionグループでは、ゼミナールの時間もすべて英語で行われます。1年次のサイエンスリテラシーで学んだことを発展させ、データ分析の手法などResearch Methods (研究手法)の習得にじっくりと取り組みます。3年次には、その集大成としてApplied Research (応用研究)がスタート。特定の分野にしばられることなく、自ら設定した自由なテーマで英語の卒業論文を書き上げます。

自分の目標や適性に合わせて グループ選択が可能

APグループとDDPグループそれぞれに特性と強みがあり、IC Academyの生徒は中学3年次にどちらかを選択することが可能です。どちらのグループも国内外の大学への進学が可能であり、自分の学習スタイルや身につけたい学習内容、進路などを考慮して選択することが大切です。IC Immersionの生徒はDDPグループへの進学で着実に実力をつけることが可能です。APグループへの進学を希望する際には、一定の基準を超える必要があります。制限が設けられています。

APグループ (Advanced Placement)

AP試験

プログラム実施期間
高2の1学期～高3の1学期

DDPグループ (Dual Diploma Program)

WACE

海外の高校卒業資格の
取得が可能

ATAR

海外の高校卒業資格 +
ATARランキング

プログラム実施期間
高1の3学期～高3の2学期

All Englishという環境が「日常」になる

高校 IC 1年(中学 Immersion) | W・Kさん



Q1. 入学時の英語力や、それ以降の 変化について教えてください。

中学に入るまで、英語に触れる機会は学校の授業だけでした。入学式の日、周りが英語を話している

すごく不安でしたが、Academyの生徒が日本語で優しく教えてくれました。先生が「恥ずかしくないからいつでも聞いてくれていいよ」と言ってくれたことが、心に残っています。中1の6月頃にはだいぶ英語に慣れました。新しいことを沢山吸収することがすごく好きになって、学ぶことが楽しいですし、友達とも新しく学んだ単語を会話の中で使ったりしています。

Q2. クラスの環境はあなたにどんな影響を 与え、どんな成長につながりましたか？

一番の成長は英語力です。2年間の英語環境のおかげか、すんなりと中3からのAll Englishの環境にも慣れることができました。常に英語を使うことを意識しますし、校外学習に行ったときも外国人の方に臆せずインタビューをすることができました。また、多様な視点や観点から物事を捉えられるグローバル思考が身についたと思います。

Q3. 英語力向上のために意識していたことを 教えてください。

毎週出る宿題に欠かさず毎日取り組み、英語に習慣的に触れるようにしました。また、学校が提供してくれる英語読書アプリで多くの本を読んでリーディングを鍛えたり、積極的に先生やAcademyの生徒に質問することで、わからないことをわからないままにしないことを意識しました。

Q4. 今後の目標があれば教えてください。

将来は、貿易関係や国際機関などの会社に勤めるとい夢があります。そのために、これからも楽しみながら英語を勉強し、学内外のイベントや集まりに積極的に参加し社会性を高めたいです。どんな環境でも周りに良い刺激を与えられる人になりたいと思っています。



高校 | AP group

大学レベルの学びに挑戦する APプログラムがスタート

本校オリジナルの教科カリキュラムに加えて、大学進学後の単位にも採用される高等教育の内容を先取りして取り組みます。

アドバンストプレイズメント (Advanced Placement : AP)

AP (Advanced Placement) は、College Board (米国) が提供する大学レベルの上級カリキュラムおよび試験プログラムです。APカリキュラムで学んだ能力と知識で、大学やその先の世界で成功するための十分な準備を整えることができます。AP試験で高スコアを取得することで、入試や奨学金の取得において学力の証明となり、大学の単位として認定される場合があります。

※2026年度実施

- [授業例]
- AP English Literature and Composition
 - AP Biology
 - AP Chemistry
 - AP Environmental Science
 - AP Physics 1
 - AP Physics 2
 - AP Precalculus
 - AP Calculus AB
 - AP Psychology
 - AP World History

西オーストラリアと日本の高校卒業資格が取得できるプログラム

高校ではDDPグループに進学し、西オーストラリア(WACEプログラム)と日本の高校卒業資格の取得を目指します。 詳細は [p.35](#) へ

*一定の基準を超えた場合、AP(Advanced Placement)を選ぶことができます。



高校 | DDP group

日本とオーストラリア 2つの高校卒業資格取得を目指す

世界的にも評価の高いオーストラリアの教育水準と本校の教育理念が相乗効果を生み、高等教育レベルの分野まで学習することが可能です。

デュアルディプロマプログラム (Dual Diploma Program : DDP)



オーストラリア教育の魅力

オーストラリアの教育が育むのは、Successful Learner, Confident and Creative Individual, Active and Informed Citizen。そのために必要な7つの力(リテラシー/数学的能力/ICTスキル/批判的・創造的思考力/個人的・社会的スキル/異文化理解力/倫理的理解力)を汎用的能力として位置づけています。本校の教育と親和性の高いオーストラリアの教育と融合した学びで、グローバル社会で活躍するための力を伸ばします。



@StudyPerth

日本にいながら 海外の高校卒業資格の取得が可能に

本校は、西オーストラリア州教育省と提携したDDP(デュアルディプロマプログラム)を導入しています。日本の高校に通いながら、西オーストラリア州のカリキュラムに則った授業を履修することで、卒業時に本校の高校卒業資格に加え、西オーストラリア州の高校卒業資格(WACE)を取得できるようになります。各教科を専門とする本校の International Teacherが英語で授業を担当するため留学する必要がありません。西オーストラリア州の万全なバックアップ体制のもと、現地のカリキュラムスペシャリストと密に連携をとりながら、定期的な教員研修も実施しています。国内大学進学時にDiploma (WACE)を使って帰国生受験をした事例もあります。

日々の学び + 試験で評価される国際的なスコア「ATAR」

ATARは、高校3年時に受験可能なオーストラリア大学進学統一検定試験です。平常評価も反映されるユニークなランキングスコアとなっており、日頃の継続的な学習の成果が直接的に結果につながります。信頼できる国際的なスコアとして認められており、海外大学進学時に必要な英語資格の提出やファウンデーションコースの履修が免除となることも多くあります。

Message from our Alumni

卒業生からのメッセージ



三田は「やってみたい」を実現できる場所

University of Pennsylvania | T・Sさん(2026年3月卒業) | 柳井正財団 奨学生

三田は、やりたいことを安心して実現できる場所だと感じています。「やってみたい」という思いを温かく受け止めてくれたことで、私は多くの挑戦を重ね、確かな成長を実感することができました。入学当初の私は、幼少期を過ごしたアメリカでもう一度生活したいという漠然とした夢しか持っていませんでした。しかし三田には、自分の興味に向かって夢中で活動する生徒が多くいます。様々な場面で主体的に活動する仲間の姿に刺激を受け、気づけば私も仲間と協力しながら理想の学校生活を夢中で創り上げていました。学問面では、生物の授業で「科学は環境問題を解決するだけでなく、深く理解するための手段でもある」という考えに触れ、強く惹かれました。その視点をもとに、トラップの設計を変えることで昆虫の採集数や種の多様性がどう変化するかを検証し、生態系の健全性を評価する研究を行いました。先生は放課後の時間も惜まず指導してくださり、研究要旨を国際発表する機会にも恵まれました。そこで出会った情熱あふれる学生たちとの交流は、その後の研究活動において大きな刺激になったと思います。学校生活の様々な場面で「相談すれば必ず力になってくれる」三田の環境が、いつも背中を押してくれました。三田で幅広い活動に挑戦する中で気づいたことは、「多角的に探究すること」が自分の原動力だということです。環境問題を科学だけでなくビジネスや政策など多角的な観点から捉える面白さに気づいたことが、進学先でさらに学びを広げたいという思いにつながっています。大学ではPPE(哲学・政治・経済)を専攻し、複合的な視点から社会問題に向き合いたいと考えています。三田で育ててもらった好奇心を胸に、これからも「やりたいこと」をかたちにしていきます。

WACEカリキュラムについて

大学レベルの内容に加え多くの単位の修得が必要だったため大変でしたが、講義以外にも多様な学びで構成されたプログラムに、次第に引き込まれていきました。WACEのリサーチ活動の中で歴史上繰り返されるパターンを比較するなど、教科書を越えて思考を深める経験ができました。

Curriculum カリキュラム

中学 インターナショナルクラス

1年				2年				3年			
国語	4	美術	1.3	国語	4	美術	1	国語	3	美術	1
社会	3	保健体育	3	社会	3	保健体育	3	社会	4	保健体育	3
数学	4	技術・家庭	2	数学	5	技術・家庭	2	数学	5	技術・家庭	1
理科	4	道徳	1	理科	4	道徳	1	理科	4	道徳	1
英語	8	総合	2.4	英語	8	総合	2	英語	8	総合	3
音楽	1.3	特別活動	1	音楽	1	特別活動	1	音楽	1	特別活動	1
		合計	35			合計	35			合計	35

- 特別活動の時間には、年間計画に基づく各行事、各種講演会を含む。
 - 総合的な学習の時間には、宿泊行事を含む校外での社会体験、観察、実験、見学、調査なども含む。
 - 1年次の「サイエンスリテラシー」、2・3年次の「Academic Seminar」は総合的な学習の時間を含む。
- ※上記は2026年度入学生のカリキュラムであり、今後変更する可能性があります。
※インターナショナルクラスのAcademyグループでは、英語・数学・理科・社会の授業は入学時からAll Englishで行います。

高校 インターナショナルコース (AP/DDP)

AP				DDP (WACE / ATAR)							
1年				2年				3年			
必修	現代の国語	2	必修	言語文化	2	必修	国語演習	2			
	地理総合	2		倫理	2		体育	3			
	歴史総合	2		体育	2		ホームルーム	1			
	公共	2		保健	1		AP World History	24*			
	数学I	4		総合的な探究の時間	2		AP Calculus AB				
	物理基礎	2		ホームルーム	1		AP Physics 2				
	化学基礎	2		AP Precalculus	24*		Capstone				
	生物基礎	2		AP Physics 1			Independent Research				
	体育	2		AP Chemistry			Study Hall				
	保健	1		AP Environmental Science			合計	30			
	英語コミュニケーションI	4		AP Biology			合計	34			
	家庭基礎	2		AP Psychology							
	情報I	2		AP English Literature and Composition							
総合的な探究の時間	1	Study Hall									
ホームルーム	1	合計	34								
音楽I	2										
美術I	2										
合計	33										

DDP (WACE / ATAR)

DDP (WACE / ATAR)											
1年				2年				3年			
必修	現代の国語	2	必修	言語文化	2	必修	国語演習	2			
	地理総合	2		倫理	2		体育	3			
	歴史総合	2		体育	2		ATAR EALD 12	4			
	公共	2		保健	1		ホームルーム	1			
	数学I	4		ATAR EALD 11	4		ATAR Philosophy and Ethics 12	24*			
	物理基礎	2		総合的な探究の時間	2		ATAR Math Applications 12				
	化学基礎	2		ホームルーム	1		ATAR Math Methods 12				
	生物基礎	2		ATAR Philosophy and Ethics 11	20*		ATAR Chemistry 12				
	体育	2		ATAR Math Applications 11			ATAR Media Production & Analysis 12				
	保健	1		ATAR Math Methods 11			Study Hall				
	英語コミュニケーションI	4		ATAR Chemistry 11			合計	34			
	家庭基礎	2		ATAR Media Production & Analysis 11							
	情報I	2		Study Hall							
総合的な探究の時間	1	合計	34								
ホームルーム	1										
音楽I	2										
美術I	2										
合計	33										

- *WACE 2年次の必修選択は20単位、WACE 3年次とAP 2年次・3年次の必修選択は、24単位を選択する。
 - *同じ時間に開講される科目を複数選択することはできない。
 - 総合的な探究の時間には、宿泊行事を含む校外での社会体験、観察、実験、見学、調査なども含む。
- ※上記は2026年度高校入学生のカリキュラムの一部抜粋であり、今後変更する可能性があります。

LEARNING SUPPORT

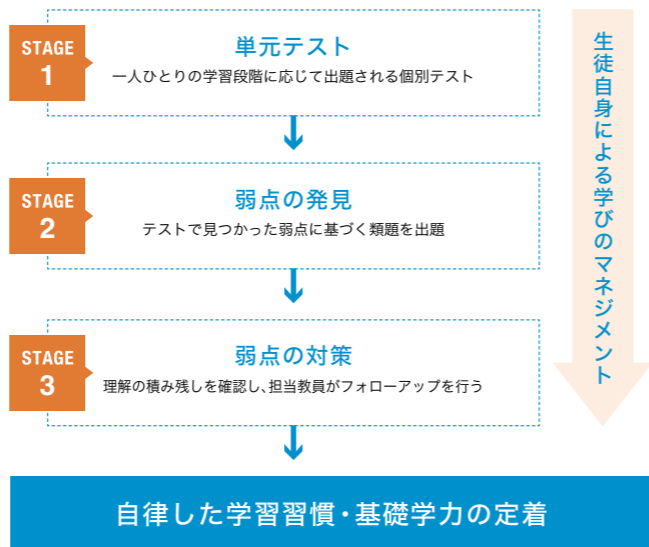
学習サポート



自律した学習者となるために

一人ひとりに必要な基礎学力の定着をサポート

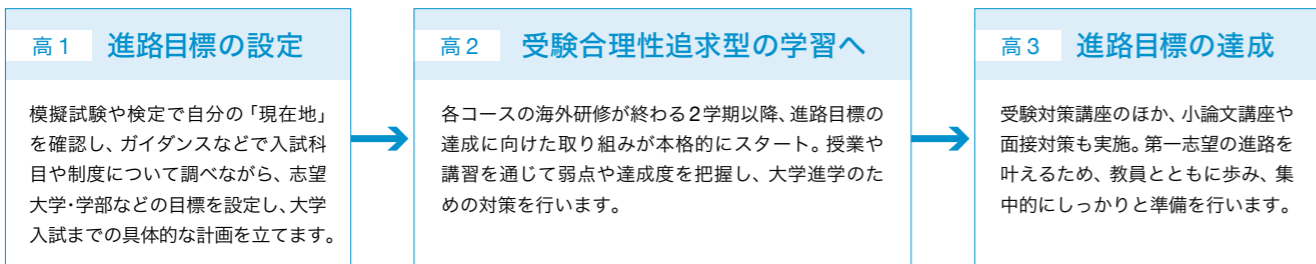
自ら探究し続けるために、基礎学力の定着は不可欠です。目標を叶えるための進路を見据えながら、今取り組むべき学びやアクションを教員とともに考え、日々実践していきます。一人ひとりの成長を促すために土台をしっかりと固め、自律した学びへと導きます。



セルフマネジメントする力

本校では、自主的に学ぶ姿勢を養うことを大切にしています。自主学習の習慣化、学力の向上を目指して朝学習の時間を活用して英語・数学を中心にテストを実施しています。また、長期休みには多様な講座を設けて教員は生徒の学習状況をアセスメントし、必要に応じてフォローアップを行います。生徒は自分自身の理解度を確かめ到達目標に向けた学習計画を立てることで、弱点を克服し、強みをさらに伸ばしていきます。これにより、定期テストなどの短期的計画から、進路目標達成に至る長期的な計画までを見通せる視野を持った、「自律した学習者」としての習慣を身につけることができます。

目標達成をサポートする進路指導



ポートフォリオによるキャリアマネジメント

夏期・冬期講習 参加希望制

夏季・冬季休暇中、全学年を対象に講習を実施します。中学1年次～高校1年次は学期中のつまづき解消や発展問題への挑戦だけでなく、「問いから始まる探究」をテーマにした理科実験講座なども設定しています。さらに、高校2・3年次には受験合理性の追求を目的とした講座を開講し、時期や進路目標に応じて一人ひとりの能力向上を図ります。 *講座ごとに費用がかかります。

* 2025年度実施	
弱点克服(開講講座例)	
英文法 基本の「き」	品詞の概念や文の要素などの「専門用語」を解き明かし、独り立ちして勉強できるようになる手助けをします。
中学現代文(超初級)	現代文が苦手な生徒向けの初級講座です。読解などについて扱います。
中1基礎数学(復習と予習)	基本的な内容を中心に2学期までの総復習(方程式・不等式・関数・証明問題)を行います。
* 2025年度実施	
学びの拡張(開講講座例)	
テクノロジーの「倫理」をデザインする	創造と模倣の線はどこにある？責任は誰が負う？哲学・文学・情報の交点で、「人間である」ことの意味を再考します。
真夏の社会科見学	都内にある政治・経済に関わる施設を中心に社会科見学をする講座です。
レーザーカッターを使ってみよう	デジタル工作機械「レーザーカッター」を使って、自分だけのデザインをかたちにします。
歌詞を書き、作品にする。	歌詞を書くことを目的とした講座です。曲は提供するので、歌詞をつけてもらいます。
Python 初めの一步	基本的なプログラミングの考え方や簡単なコーディングを体験し、自分で動くプログラムを作ります。

* 2025年度実施	
受験対策(開講講座例)	
電磁気学演習	入試問題を用いた電磁気学の問題演習をします。
共通テスト数II BC対策	共通テストの統計問題を確実に得点源とするために、短期集中で学んでいきます。
最難関私大古文を極める	本文中の要注意ポイントを解説し、経験値増幅を図ります。
最後の挑戦!! 難関大学向け微積分	難関大学の問題に向き合いながら、知識・思考の総整理を行います。問題の読み方や解法に至るまでのプロセスを確認していく講座です。
Essay Workshop	強い印象を与えるエッセイを書く方法と、自信を身につける講座です(英語開講)。

Spring Study Camp (高校生対象 参加希望制)

高2の春季休暇中に、3～4日間にわたって開催される通学型学習イベント。自身の学習状況や進路目標に合わせて学習計画を立て、終了後には振り返りも行います。生徒は希望する講座を受けたり、教員や卒業生による相談室や自習室を利用したりすることができます。

Message from our Alumni 卒業生からのメッセージ



写真右: 東京大学 文科二類 | O・Kさん(2026年3月卒業)

- Q1. 塾に通わずにどのように学習習慣を身につけたか、学校環境の活用方法とあわせて教えてください。**
 中3の頃から、日々の宿題に加えて苦手分野を自学することが増えたことで、学習習慣が身についたと思います。高3のGWからは一気に勉強時間を増やしました。図書館を自習室代わりにしたり、学校がない期間も数学の先生にお願いをして、ゼロワンなどで大学入試の問題をひたすら解きました。
- Q2. 探究学習と受験勉強の両立について、不安はありませんでしたか？**
 むしろ、高1までの探究授業はやるべきだと思います。探究を通じて自分の考え方を考えるチャンスを得ていれば、勉強に対しても自律して活発に取り組めるようになるからです。学校のカリキュラムをベースにしつつ、高2、高3から集中すれば十分に間に合うと感じました。
- Q3. 三田国際科学はどんな学校ですか？**
 三田は「多様性のある学校」です。もともとチャレンジ精神旺盛な人だけでなく、中学時代の私のように、消極的なタイプの人でも変わるチャンスがあり、楽しめる場所です。どんな人でも、自分なりの楽しみや成長を見つけられる学校だと思います。

海外大学進学に向けて

- 本校には JAOS* 認定留学カウンセラーや RCA 海外留学アドバイザー* の資格を持つ教員が多数在籍しています。すべてのコースの生徒を対象に、一人ひとりの状況に応じたカウンセリングや、海外大学進学に向けた準備や心構えなどについての進路ガイダンス、海外大学の関係者による説明会を定期的実施しています。また、現地大学に通う本校卒業生が登壇するセミナーなども開催しています。
- 本校が提携している大学の入学条件を満たした場合、奨学金の給付や入学金の割引があります。マンチェスター大学やシドニー大学なども含まれる「UPAA」や「Shorelight」にも加盟しており、進路を考える際に海外が身近な選択肢になるよう、様々な取り組みを行っています。

* JAOS: 一般社団法人海外留学協議会 (Japan Association of Overseas Studies)
 * RCA 海外留学アドバイザー: NPO法人留学協会が認定する民間資格。
 * UPAA: 協定している大学へ共通の入学願書と高等学校の推薦で入学できる、海外協定大学推薦制度。
 * Shorelight: アメリカの50以上の大学と提携し、海外からの留学生が北米で学ぶためのプログラムを提供。

CAREER EDUCATION

キャリア教育

変化の激しい時代でも 自分の未来を切り拓いていく
自ら考え行動することを支援するキャリア教育

Adaptability | アダプタビリティ

キャリア教育の根幹は日々の学び 12のコンピテンシーを身につける

本校のキャリア教育の根幹は、日々の学習の中にあります。変化し続ける世界で求められる「12のコンピテンシー（能力・行動特性）」を教育目標として設定し、生徒たちは学校生活のあらゆるシーンにおいて、これらを身につけていきます。一人ひとりが自己理解を深め、他者との関係性から「自分がどうありたいか」を考え、進路やその先の未来へとつなげていきます。



Identity | アイデンティティ

自分ってどんな人間なのか？

プレゼンテーションや対話を通し自己理解を深める

本校では、プレゼンテーションを中心としたアウトプットの機会が授業や行事の中でも用意されています。考えたことを自分の中だけでとどめるのではなくアウトプットすることで、客観的な視点が加わり、考えが整理され、広がりが生まれます。

オリエンテーション合宿 (中1)



入学後初の宿泊行事。夢や目標についての仲間とのコーチングで自己理解を深め、最終日にはクラスメイトの前で発表も行います。

Presentation Day (中2・中3)



学年ごとのテーマで全員がプレゼンテーションを行い、自ら探究したことを他者に伝えるという体験を通して、将来のイメージを具現化していきます。

MITA International Festival (学園祭)



各学年が表現活動を行います。中学1年次は他者への取材などを通して改めて自分を掘り下げ、自己理解についてプレゼンテーションを行います。

Message | メッセージ



変化の激しい21世紀においては、変化に翻弄されるのではなく、変化に適応し、しなやかに生き抜いていくキャリア教育が必要です。本校では日々の授業、宿泊研修、様々な学校行事の中で、生徒が自律し、自らのキャリアと向き合っていく教育を実践しています。教員はポートフォリオを日々確認し、個別カウンセリングなどを行っています。生徒が成長する姿には驚かされることばかりです。生徒たちは社会をより良い方向に変えようと、様々な有志団体を設立しています。社会にある様々な格差の是正に向けた活動を行ったり、自ら働きかけて既存の企業やNPO 団体とコラボしている生徒もいます。生徒たちが自発的に挑戦していけるように、サポートすることが学校の大きな役割だと認識しています。

広報部長 内田 雅和 | キャリアカウンセラー
国内外のキャリア関連の資格を取得。

Action | アクション

多様な価値観を知ることによって多様な生き方が選べる

「どんな自分になりたいか」から進路を選択する

ワークショップやフィールドワークなど、学年ごとに社会との接続を数多く行うことで、社会の中で「自分がどうありたいのか」という問いを自ら考え深めていきます。宿泊行事では、地域で活躍されている方々や、第一線で活躍するプロフェッショナルなど多くの方々との出会いを通して、自分の現在地を更新し目標を設定していきます。

Social Link Trigger (中2)・Social Link Action (中3)



中学2・3年次に行われる「Social Link」プログラムでは、知識としての社会課題ではなく実際に向き合っている方々と直接対話をし体感することで、自己と社会を捉え直します。中2では全クラスが関東近郊、中3ではISC・MSTCが福井、ICが広島をフィールドに活動します。中3のISC・MSTCでは自分なりの「アクション」を考え行動に移すことで、自分も社会に対して貢献できるというエージェンシーを身につけます。ICは広島に赴き、地域で活動されている方々や、日本に留学している大学生と協働しながら、平和に関する活動を行います。

Career Training Camp (高1)



在校生の保護者の方々に協力いただき、各分野のプロフェッショナルとのセッションを通して、自分の現在地を確認し、社会にどのように貢献できるのかを考えキャリアビジョンを明確にしています。

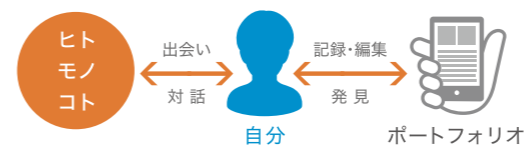
海外研修 (高2)



高校ではコースごとに内容が異なる研修が設定されています。すべてのコースで現地の方と交流するなど、実体験の中で学びが深まっていくようにデザインされています。帰国後、グローバルな視点を加えながら改めて自分のキャリアパスを捉え直し、進路や将来の夢の実現へとつなげていきます。

Portfolio | ポートフォリオ

デジタルポートフォリオの活用 記録・編集することで自分と向き合っていく



ここでのポートフォリオとは、日々の学習や多様な活動内容、成果やそこから得た気づき、成長を記録していくものを指します。本校ではアプリケーションを活用しており、教員も日々フィードバックを行います。生徒自身が自己評価を行う過程で、自分を客観的な視点で捉え直していきます。教員も個別にフィードバックを行い、相互理解を深めていきます。

Message from our Alumni | 卒業生からのメッセージ



地域を活性化したい 主体性を意識して見つけた夢 東京科学大学 環境・社会理工学院 | K・Jさん (2026年3月卒業)

6年間で最も成長したのは「主体性」です。三田では、前例にしばられず生徒がその都度行事を創り上げます。変化や未知の挑戦が用意されている環境そのものが、三田のキャリア教育の一つだと感じます。そうした環境で生徒が主体性を持って取り組む姿勢に刺激を受け、私も自ら考え行動することを意識し始めました。特に転機となったのは、中学2・3年次に新たに始まった地域連携を行う宿泊学習で、企画運営のコアメンバーに興味本位で参加したことです。歴史や街並みの魅力発信について考える過程で、地域の特性を活かしたまちづくりに関心を抱き、建築やまちづくりを大学で学ぼうと思いはじめました。受験にあたっては、ほとんど未経験だったデッサンを美術の先生が手厚く指導してくださり、非常に大きな助けとなりました。刺激を与え合い競い合える個性的な友人、やりたいことを応援サポートしてくださる先生方のおかげで、私は大きく成長できたと感じます。今後も主体性を持って国内外の地方の歴史や土地に基づく開発・まちづくりに取り組み、活躍していきたいです。

University Admissions | 進路実績

2026年の主な国内大学合格実績

国公立大学	大学名	学部	総数
	東京大学		理学部
理科一類			1
文科一類			1
文科二類			1
文科三類			1
大阪大学		工学部	1
東京科学大学		情報理工学院	1
		環境・社会理工学院	1
		物質理工学院	1
		理学院	1(1)
東北大学		工学部	4(1)
		農学部	1
九州大学		薬学部	1
		芸術工学部	1
北海道大学		総合系	1
筑波大学		理工学群	1
		教育学部	1
横浜国立大学		理工学部	1
		理学部	1
千葉大学		理学部	1
		国際社会学部	1
東京外国語大学		国際社会学部	1
東京藝術大学		美術学部	2
金沢大学		医学類	1
東京農工大学		工学部	2
宇都宮大学		工学部	1
群馬大学		理工学部	1(1)
国際教養大学		国際教養学部	2
横浜市立大学		理学部	2
	計		34(3)

私立大学 (早慶上理ICU)	大学名	学部	総数
	早稲田大学		社会科学部
法学部			4
文化構想学部			5
商学部			2
文学部			2
国際教養学部			14
教育学部			5(1)
スポーツ科学部			1
創造理工学部			4
法学部			6
慶應義塾大学		経済学部	6
		文学部	8
		商学部	4
		総合政策学部	2
		環境情報学部	4
		理工学部	6(1)
		薬学部	1
上智大学		国際教養学部	8
		経済学部	6
		文学部	2
		法学部	4
		外国語学部	1
		理工学部	4(1)
東京理科大学		工学部	8(1)
		理学部	4(1)
		先進工学部	7
		創域理工学部	8(1)
		経営学部	1
国際基督教大学		教養学部	5
	計		135(6)

医学部医学科	大学名	総数	私立大学 (GMARCH他)	大学名	総数
		金沢大学		1	
防衛医科大学校		2(1)	明治大学	45	
東京慈恵会医科大学		1(1)	青山学院大学	19	
順天堂大学		2	立教大学	41(2)	
日本医科大学		1	中央大学	10	
昭和医科大学		5(1)	法政大学	22(2)	
東京医科大学		5(1)	関西学院大学	3	
東邦大学		3(1)	関西大学	1	
国際医療福祉大学		3	同志社大学	2	
帝京大学		3	立命館大学	11(5)	
聖マリアンナ医科大学		2	計	160(9)	
	計	28(5)			

()内は既卒者数 *2026年3月卒業生(197名)のうち、一部抜粋。

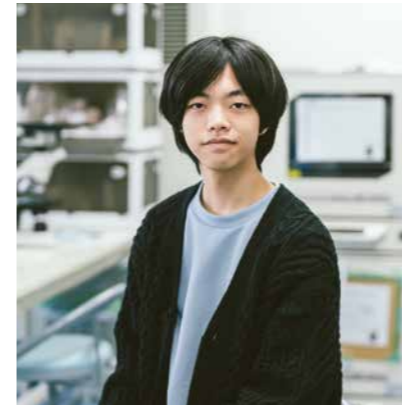
主な海外大学合格実績

大学名	順位
Princeton University	3
Harvard University	5
Stanford University	5
University of California, Berkeley	9
University of Pennsylvania	14
Johns Hopkins University	16
University of California, Los Angeles	18
Cornell University	18
University of Michigan-Ann Arbor	23
University of Washington	25
Duke University	28
New York University	31
Georgia Institute of Technology	41
University of Illinois at Urbana-Champaign	41
USA University of California, San Diego	47
USA University of Wisconsin-Madison	53
USA University of California, Davis	64
USA Washington University in St. Louis	67
USA University of California, Santa Barbara	72
USA University of Southern California	73
USA Boston University	76
USA Purdue University, West Lafayette	85
USA University of Minnesota Twin Cities	88
USA University of California, Irvine	97
Dartmouth College	
Georgetown University	
Bowdoin College	
Grinnell College	
Wellesley College	
GBR University College London	22
GBR University of Edinburgh	29
GBR King's College London	38
GBR University of Manchester	56
GBR University of Bristol	80
GBR University of Birmingham	98
CAN University of Toronto	21
CAN McGill University	41
CAN University of British Columbia	45
AUS University of Melbourne	37
AUS University of Sydney	53
AUS Monash University	58
AUS Australian National University	73
AUS University of Queensland	80
SGP National University of Singapore	17
HKG Nanyang Technological University	31
HKG University of Hong Kong	33
KOR Yonsei University	86
KOR Sungkyunkwan University	87
NLD University of Amsterdam	62
NLD Wageningen University & Research	66
NLD Leiden University	70
NLD University of Groningen	82
BEL KU Leuven	46
CZE Charles University	
ITA Saint Camillus International University of Health and Medical Sciences	
HUN Semmelweis University (医)	
FIN HAMK Häme University of Applied Sciences	

2023年～2026年までの過去4年分のうち、一部抜粋。
 順位 ……Times Higher Education (THE) による World University Rankings 2026 の上位 100 位以内を掲載。

Message from our Alumni — 卒業生からのメッセージ

6年間の学びを振り返って



同じ熱量の仲間と研究した日々
 知の境界を広げる研究者に

東京大学 理科一類 / S・Sさん (2026年3月卒業)

三田は、日本の伝統的な教育方法には収まらない種類の能力を伸ばす環境だと思います。研究活動を通じて、主体性や考える力が身につく、自分の興味を追求したり積極的に挑戦することの大切さを知ることができました。また、問いを見つけて仮説を立て、検証して考察するという研究の流れも身近に感じられました。高校の最初は具体的な研究内容が決まっていませんでしたが、放線菌から新規化合物を探す話を先生から聞いて、一気に熱中しました。同じ熱量を持つ仲間と一緒に取り組めたことが、とても楽しかったです。充実した研究環境があり国際交流も盛んな東京大学で、今後は今まで検証できなかったアイデアをより深めていきたいです。世界で初めて何かを明らかにするワクワク感を追求し、人類の知の境界を広げていきたいという夢があります。自分の研究をもとに新しい化学の分野を開拓していき、国際的にもその発展を牽引できる研究者になりたいです。

実践的な経験を活かし
 公平な社会の実現を目指す

慶應義塾大学 法学部 / N・Wさん (2026年3月卒業)

私が最も印象に残っているのは、友人と行った Liberal Arts の取り組みです。高校での Career Training Camp をきっかけに「脳波を利用した新たなオンラインエンターテインメント」というビジネスプランを考案しました。授業の中で企業への相談を重ねて構想を練り、ビジネスコンテストでは入賞することもできました。留学に行った友人と毎日のように深夜まで企画を練り上げたことは、とても良い思い出です。この経験を通じて、それまで知識の乏しかったお金の話や、現実的な技術の話、アイデアの明瞭化やブラッシュアップする方法を学ぶことができました。社会の実践的な場に身を置けたことは、非常に貴重な経験でした。また、ルールメイキングなどの有志活動を通して社会に興味を持つことが増え、日本史や小論文対策などの学問興味も相まって、政治への関心が強まりました。将来は、多くの人の意見に耳を傾けながら、公平でより良い社会の実現に貢献できる人になりたいです。



行動を起こす学校の文化
 テクノロジーで生活を豊かにする

University of California, Berkeley EECS / K・Sさん (2026年3月卒業) 柳井正財団 奨学生

三田を一言で表すと、「激アツ」な場所です。三田には、自分たちのやりたいことを突き詰めるという校風があります。目標のために行動を起こし、周りを巻き込む文化です。その文化があったからこそ、私は「テクノロジーで学校生活を豊かにする」という目標を掲げ、100人以上を巻き込んでサービスを開発することができました。そしてこの文化は、生徒だけではなく、企画を提案した際、沢山の教職員の方々がフィードバックをくださり、ぶつかっていただきました。生徒と同じくらい熱くしてくれる先生方がいることは、三田の大きな魅力だと思います。私の将来の夢は、皆が便利で豊かな100年人生を送れる社会を創ることです。現在の目標は、スマート家電と連携し自然な会話から孤独感を和らげるAIコンパニオンを開発することです。AIと認知科学を学び、開発した技術を日本に持ち帰り、社会実装に挑戦します。「好きなことでメシを食べていきたい」と願う人たちに、三田は最もおすすめできる学校だと思います！

数値を超えた自分の模索
 海外から日本の「美」を見つめ直したい

Minerva University (合格) / S・Uさん (2026年3月卒業)

地域活性化プロジェクトの中心となって試行錯誤した経験が大きな成長と自信になり、中3で「社会の美の基準を問い直したい」という思いから共感する仲間と有志団体を立ち上げました。高校で勉強や課外活動に積極的に取り組む友人を見て、成績などの数値面以外で自分をどう差別化できるか模索したことは、私自身の大きな財産となっています。心理学の授業や論文執筆、有志団体での活動を通じ、ポティイメージ(自身の容姿への自己肯定感)への関心が深まり、ポティイメージ改善のマーケティングを実現することが夢になりました。海外大学への進学を決めたのは、専門家や企業の成功例に触れながら、日本における「美の多様性」を定着させる方法を国外から客観的に見つめ直したいと考えたからです。ミネルバ大学との出会いや、奨学金などの情報を提供してくださった先生方の助けは、私の挑戦に不可欠でした。大学での学びを通じ、誰もが自分らしい美しさを肯定し、健やかに生きられる社会を日本に築いていきたいです。





ACTIVITIES 課外活動



部活動一覧・加入率・活動日数

加入率：中高合わせて約90%
活動日数：原則、週1〜3日

*文化部は基本的に中高合同で活動しますが、運動部は部活動により異なります。

運動部

サッカー / 新体操 / 硬式テニス / ラグビー(高校) / バasketボール / バドミントン / バレーボール / ポップダンス / 軟式野球 / 卓球 / 陸上競技

文化部

囲碁・将棋・チェス / 演劇 / English / コーラス / コンピュータ / サイエンス / 吹奏楽 / 鉄道研究 / 華道 / 茶道 / 箏曲 / 美術

*上記は2026年度時点のものであり、今後変更する可能性があります。

表彰実績 (2025年度までの抜粋)

陸上競技部

- 第71回 全日本中学校通信陸上競技大会 東京都大会 女子円盤投 第3位
- 第68回 東京都私立中学高等学校陸上競技選手権大会 中学女子総合第2位

吹奏楽部

- 第65回 東京都中学生吹奏楽コンクール 金賞
- 第65回 東京都高等学校吹奏楽コンクール 銀賞

ポップダンス部

- 第14回 日本中学校ダンス部選手権 全国決勝大会 第3位

軟式野球部

- 第77回 玉川地域少年野球防犯大会 第3位

美術部

- 第26回 高校生国際美術展 -美術- 奨励賞
- 令和6年度 東京都私立中学高等学校協会 第8支部連合美術展覧会 絵画の部 金賞、河合塾賞

バスケットボール部

- 2024年度 東京私立中学高等学校協会 第8支部 女子バスケットボール大会 中学の部 優勝、最優秀賞、優秀選手賞

コーラス部

- 第91回 NHK全国学校音楽コンクール 東京都コンクール 中学校の部 フリー部門 奨励賞

個人・有志団体

- DREAM JAPAN PROJECT 2025 企業課題解決コース セブン-イレブン・ジャパン賞 第1位、トヨタ・コニック・プロ賞 第2位
- PFFアワード 2025 審査員特別賞
- 第7回 Keiai Cup 高校生英語スピーチコンテスト 第1位
- 日本倫理・哲学グランプリ(2025) 銀賞
- 第1回 マイナビアートスクエアアワード 2025 マイナビ賞
- 第12回 脳科学オリンピック日本大会 第6位
- App Design Contest 2024 グランプリ
- 第47回 東京都高等学校文化祭 放送部門 ビデオドラマ部門 第3位、制作奨励賞
- イノベーションユース season3 (2024年度) 最優秀賞、革新開拓賞、未来創造賞、社会貢献賞、表現技術賞、教育奨励賞
- 第13回 角川つばさ文庫小説賞 こども部門 準グランプリ
- 第42回 全国鉄道少年団作文コンクール 中学生の部 銀賞
- 第9回 国立大学法人東京学芸大学主催 課題研究成果発表会 ポスター発表 奨励賞
- 世界遺産×SDGs チャレンジ! 2024年度 小論文部門 優秀賞・入賞
- 第74回 全日本学生書道展 旺文社賞

MSTC(メディカルサイエンステクノロジークラス・コース)の実績は p.28へ

箏曲部での挑戦と経験で仲間とともに奏でる成長

箏曲部

高校1年 I・Hさん

部活動

箏曲部の活動は、学園祭や外部での演奏、留学生へのおもてなしなど、人前で発表する機会が多くあります。その一つひとつの経験を通して自分の課題や成長に気づける点が、この部活動の魅力です。練習では上手くいかないこともあります。仲間と教え合い演奏が揃った瞬間、一人ひとりが欠かせない存在だと実感します。難しいパートを担当した際は、上手く演奏できず、先輩との実力の差に悩みましたが、部長に指導をお願いして納得がいくまで自主練習を重ねたことで、自信を持って本番に臨むことができました。箏曲部で培った挑戦する気持ち、努力を続ける力、そして仲間と支え合う心は、今の私の学校生活を大きく支えています。



再挑戦から学んだ団結力 個の努力を超えてつかった3位

野球部

中学3年 M・Kさん

部活動



受験勉強のためにやめた野球の楽しさが忘れられず、また挑戦したいと思い野球部に入部しました。当初は部員が少なく他校との連合チームで活動していたため、部員のやる気に差がありました。しかし、新1年生の入部により単独チームとなったことをきっかけに、練習メニューを自分たちで考えるなど、部員の意欲や自主性が次第に高まってきました。自分自身もチームのためにできることを考えるようになり、1年生を支える声掛けをするようになりました。全員が全力で取り組むことでチームが団結し、連携の大切さを実感しました。一人ひとりが役割を理解し実行したことで、延長戦の末に地区大会で3位になることができた試合は、忘れられない思い出です。

人々が日々の「選択」を変えるきっかけになりたい

有志団体

団体名「スマカカ」 | ハンガリー国立大学医学部 T・Uさん (2026年3月卒業)

三田国際科学学園には、教員から与えられるのではなく、生徒が自らの問題意識から立ち上げる「有志団体」という枠組みがあります。この団体を立ち上げた生徒に、インタビューを行いました。



知ることから「選択」を変えるきっかけ作りへ

私たちは、西アフリカ・ガーナの児童労働問題の解決を目指す団体です。単に「児童労働はかわいそう」という同情を誘うのではなく、その背景にある構造的な問題を伝えることで、人々が日々の「選択」を変えるきっかけになりたいと考えています。ガーナのカカオ農園では、貧困や教育機会の不足から、多くの子どもたちが過酷な労働に従事しています。それが学習の遅れを招き、大人になって

も低所得から抜け出せないという負の循環を生んでいます。この現状を「自分事」として捉えてもらうため、私たちは自発的に学びたい企画することを大切にしています。

ワークショップに約1,000名を動員

活動の場は校内にとどまりません。学園祭では、チョコレート製造企業と提携し、親子連れなど約1,000名に対し、工作を通じて児童労働を学ぶ「カカオまる」ワークショップを実施しました。また、自分たちで直接、児童館や放課後保育施設にアポイントを取り、未来の消費者である子どもたちへ授業を行っています。もちろん、最初からすべてが順調だったわけではありません。施設への交渉では、何度連絡しても断られたり、返信が来なかったりと、精神的に消耗することもありました。しかし、メンバーで知恵を絞り、粘り強く交渉を重ねた結果、協力いただける施設を自分たちの手で開拓することができました。

「全員が主役」の組織マネジメント

団体が大きくなるにつれ、マネジメントの壁にもぶつかりました。私たちの使命である「児童労働



の認知向上」という意識が薄れ、活動が単なる作業として消化されてしまう瞬間もありました。少数の議論を増やし、「この取り組みがどのように目的に貢献するのか」を言語化し、全員が使命感を持って動ける環境を整えています。ミーティング後に夜遅くまで語り合い、改善策を練り上げる仲間の存在が、私たちの推進力です。

ガーナでの経験と、世界へ広がる視点

私自身、現状を肌で感じるため、2週間のガーナ留学に挑戦しました。現地でメディカルボランティアとして産婦人科などで活動し、16歳の未成年の出生や医療環境の過酷さを目の当たりにしました。児童労働が、教育だけでなく医療や貧困と深く結びついた「生きること」そのものの課題であると痛感した経験は、活動の原動力となっています。

三田を一言で表すなら「全員が主役の実験場」。これからも「挑戦し続ける」というモットーを胸に、世界の課題に挑む人々の背中を押せるような生き方をしていきたいです。

ANNUAL EVENTS

年間行事

今という瞬間を全身で表現する

年間を通して行われる行事では、クラスや学年を超えて実行委員会が設置され、生徒主体で運営を行います。

日頃の授業だけでなく、年間行事でも12のコンピテンシーを意識し育みます。多様なバックグラウンドを持つ仲間とともに一つのことを成し遂げる経験は、生徒を大きく成長させ、その先の社会を生きていく大きな力となります。

時間割	
	中学 高校
8:30 ~ 8:45	朝学習・SHR
8:50 ~ 9:40	1 時間目
9:50 ~ 10:40	2 時間目
10:50 ~ 11:40	3 時間目
11:50 ~ 12:40	昼休み 4 時間目
12:45 ~ 13:35	4 時間目 昼休み
13:45 ~ 14:35	5 時間目
14:45 ~ 15:35	6 時間目
15:40 ~ 15:50	SHR
~ 16:00	清掃
18:00	完全下校

*土曜日は4時間目まで授業があります。午後の授業はありません。
土曜日の4時間目は中高とも11:50~12:40で、そのあと清掃を行います。



昼休みの過ごし方

カフェテリアは中学生から利用できます。中学生と高校生の昼休みの時間がずれているため、6学年が一度に集まる心配はありません。昼食は、カフェテリアで購入するほか、昇降口での軽食やパンの販売もあります。また、お弁当を持参し、カフェテリアや教室、中庭で食べる生徒も多くいます。

	4 APR.	5 MAY	6 JUNE	7 JULY	8 AUG.	9 SEP.	10 OCT.	11 NOV.	12 DEC.	1 JAN.	2 FEB.	3 MAR.
学校行事	<ul style="list-style-type: none"> 入学式 始業式 オリエンテーション合宿(中1) 	<ul style="list-style-type: none"> 開校記念日(5月1日) Career Training Camp(高1) 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開 Sports Festival(体育祭) 生徒総会 	<ul style="list-style-type: none"> 終業式 高校 MSTC 海外研修 		<ul style="list-style-type: none"> 始業式 Social Link Trigger(宿泊研修・中2) Social Link Action(宿泊研修・中3) 	<ul style="list-style-type: none"> MITA International Festival(学園祭) 	<ul style="list-style-type: none"> 高校 ISC 海外研修 高校 IC 海外研修 	<ul style="list-style-type: none"> 終業式 Presentation Day 	<ul style="list-style-type: none"> 始業式 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽会 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会選挙 卒業式 修了式
学習				<ul style="list-style-type: none"> 期末試験 夏期講習(前期) 	<ul style="list-style-type: none"> 夏期講習(後期) 				<ul style="list-style-type: none"> 期末試験 冬期講習 			<ul style="list-style-type: none"> 学年末試験 Spring Study Camp(高2)

*上記は2026年度のプログラムの予定であり、今後、時期・内容などは変更する場合があります。

PICK UP

MITA International Festival (学園祭)

学園が一体となって「発想の自由人」を体現する一大イベント。プレゼンテーションやポスターセッションによる研究・探究成果の発表、音楽やダンスや演劇などのパフォーマンス、学年有志団体が企画する参加型ワークショップなど、生徒が多様なアイデアを出し主体的に運営を行います。



より良い学校生活を過ごすために…

① アンケートツールの活用・個人面談の実施

学期ごとに学校生活における満足度や個々の状況などについてアンケート調査を行い、当事者以外にも何か気になる些細なことを相談できる機会を作っています。生徒の気質や心の状態を把握し、担任・学年・教科担当が常に情報を共有し、協力する体制を整えています。また、最低でも学期に1度は個人面談の場を設けています。

② 常勤カウンセラーによるケア

カウンセリングルームには常勤カウンセラーがおり、個人カウンセリングを受けることが可能です。また、保護者の方からの相談も受け付けています。
利用時間 10:00 ~ 18:00

FACILITIES

施設・環境



- A** パティオ (中庭) **B** メインホール **C** ギャラリースペース
- D** ホームルーム すべての教室にホワイトボードとプロジェクターを設置。ICTを活用した授業を展開できます。
- E** サイエンスラボ **F** 図書室 蔵書約4万冊を誇り、電子書籍や洋書も充実しています。静かに読書や学習ができるスペースも用意されています。
- G** カフェテリア **H** Communicative Space **I** 自習室 **J** 視聴覚室 **K** グラウンド **L** Zero to One (ゼロワン)

❗ セキュリティと緊急時の対応

生徒の登下校時には正門に警備員を配置し、各出入口には防犯カメラを設置しています。また、災害時には校内で3日間過ごせるように、寝袋・毛布等のほか生徒全員分の個人用防災備蓄品を完備しています。緊急時の保護者の方や生徒への連絡、災害や天候による休校のお知らせなどは、学校連絡網アプリを通じて連絡いたします。

MESSAGE FROM THE SCHOOL DIRECTOR

学園長からのメッセージ

発想の自由人たれ



今、目の前にいる生徒とどのように向かい合っていくか。それを考えることが教育の原点であると思います。今日の課題をしっかりと理解できるようにすることは、もちろん大切です。同時に、社会に出て活躍している姿をイメージすることも必要だと思います。いささか気の長い話かもしれませんが、そうすることで必要な資質が浮かび上がり、なすべき教育がはっきりしてくるのです。

三田国際科学学園の生徒には、日々の学びを通して、持続可能な社会を作っていく一員であることを理解し、将来その貢献者として認められるようになってもらいたいと考えています。この願いこそが、本校の目指す世界標準の教育の出発点です。

本校に入学したすべての生徒が、いつの日か、「今の実力は中学・高校時代を通して身につけた」と胸を張って言えるように。学び考えた日々が、人生における得難い貴重な時間であったと振り返ってもらえるように。生徒にはずっと言い続けていきます。

——三田国際科学学園生よ、発想の自由人たれ

三田国際科学学園学園長 大橋清貴

HISTORY

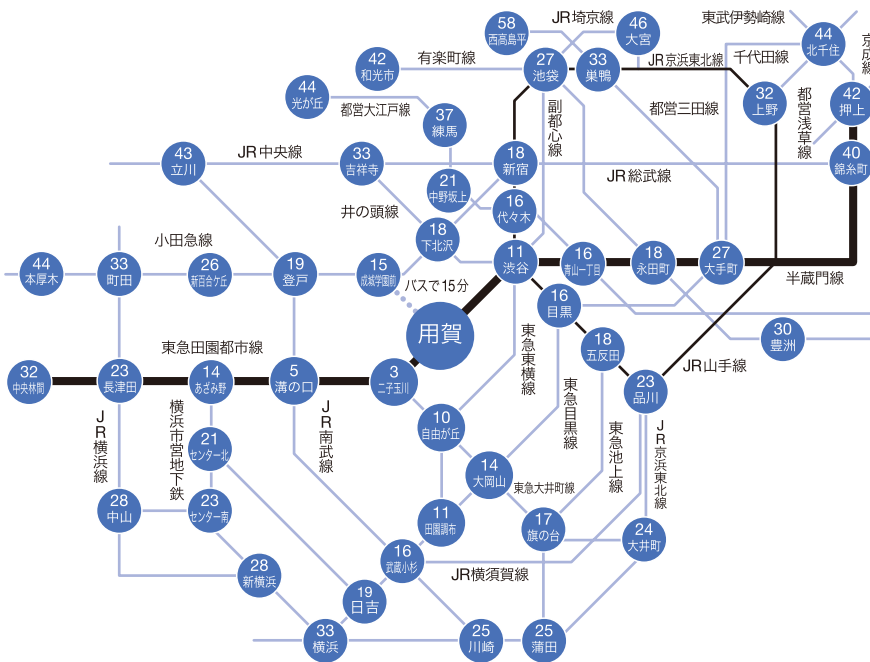
沿革

明治35(1902)年、戸板関子先生が現在の芝公園の一角に「戸板裁縫学校」を開校しました。これが学校法人戸板学園の前身です。この学校は生徒の裁縫に対する高い識見と画期的な指導形態・技術によって急激に生徒数を増やし、それに伴って、現在戸板女子短期大学のある港区芝二丁目に移転。やがて大正5(1916)年に「戸板裁縫学校」に併設して、中・高部の前身である「三田高等女学校」(昭和12年に戸板高等女学校に校名変更)が開校されました。三田の地には、私たちの教育のルーツがあり、その志が今も脈々と受け継がれています。

- 1902 (明治35) 戸板関子により芝公園の一角に戸板裁縫学校を創立
- 1904 (明治37) 三田四国町へ移転
(現在 学校法人戸板学園本部の所在地)
- 1916 (大正5) 三田高等女学校を創設
- 1937 (昭和12) 三田高等女学校から戸板高等女学校に改称
- 1946 (昭和21) 戸板裁縫学校を戸板女子専門学校に昇格
- 1947 (昭和22) 新制度により戸板中学校を発足
- 1948 (昭和23) 戸板女子高等学校を発足
- 1950 (昭和25) 戸板女子短期大学を発足
- 1993 (平成5) 中・高部は世田谷区用賀へ移転
(現在 三田国際科学学園校舎の所在地)
- 2012 (平成24) 戸板学園創立110周年
- 2015 (平成27) 「三田国際学園中学校」「三田国際学園高等学校」と改称し、共学化をスタート
- 2025 (令和7) 「三田国際科学学園中学校」「三田国際科学学園高等学校」と改称

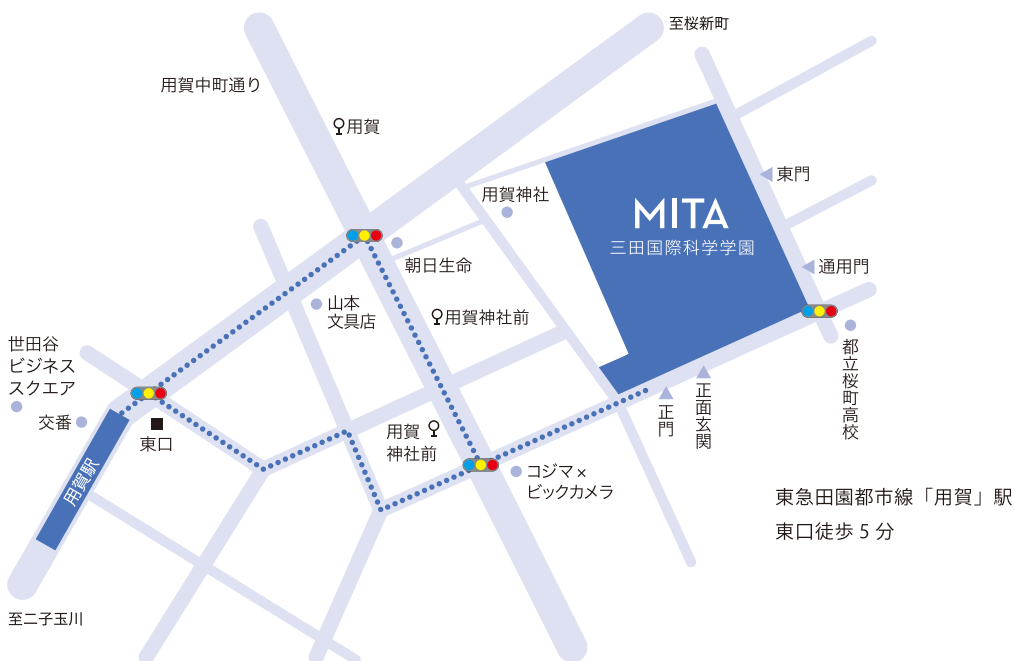


学校へのアクセス



バス：小田急線「成城学園前」駅より東急バス2番のりば「用賀駅」または「等々力操車所」利用「用賀」下車徒歩3分
 * 田園都市線の急行は、「用賀」駅には停まりません。* 丸団みの通学時には乗り換え時間は含みません。

用賀駅からのアクセス



三田国際科学学園中学校
 三田国際科学学園高等学校